

一般社団法人 日本医療薬学会
薬物療法専門薬剤師研修ガイドライン
第2版

薬物療法専門薬剤師研修小委員会 作成

注意：本ガイドラインは、現行のコアカリキュラム内容に相当するものとする。
コアカリキュラムの各項目の詳細については、各研修施設の特性を考慮して決定すること。

薬物療法専門薬剤師研修小委員会 委員

鈴木 貴明（千葉大学医学部附属病院）

武隈 洋（北海道大学病院）

土屋 広行（信州大学医学部附属病院）

中村 安孝（大阪市立大学医学部附属病院）

樋口 則英（長崎みなとメディカルセンター）

細野 智美（筑波大学附属病院）

永田 将司（東京医科歯科大学病院）

村田 龍宣（地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院）

山崎 美保（独立行政法人 労働者健康安全機構 中国労災病院）

○渡邊 裕之（医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院）

○ 委員長

薬物療法専門薬剤師養成研修ガイドライン 改訂履歴

初版 平成 28（2016）年 3 月

第 2 版 2022 年 5 月（一部改訂）

目次	頁
1. 到達目標	9
2. 薬物療法専門薬剤師の役割と必要な臨床能力（5年間で研修）	10
2-1. 患者から収集した情報、および身体所見、腎機能、肝機能、血液学的検査などの指標に基づいて、薬物療法の妥当性を評価する	10
2-1-1. 患者情報の収集について	10
2-1-2. 薬物療法の妥当性の評価について	10
2-2. 問題リストの解析結果に基づいて治療目標を理解し、個々の患者に最適な薬物療法のプラン（変更を含む）を提案する	10
2-2-1. 標準治療、代替治療を含め、治療目標を理解する	10
2-2-2. 問題点を把握し、個々の患者に最適な薬物療法プランを提案する	10
2-3. 必要に応じて、薬物動態に基づく処方設計を実践する	10
2-3-1. 薬物動態に関する基礎知識について	11
2-3-2. 薬物動態学的な解釈に基づく処方設計と薬物血中濃度のモニタリングについて	11
2-3-3. 薬物血中濃度の測定結果の解析について	11
2-4. 医師、その他の医療従事者と良好なコミュニケーションをとり、共同して治療プランを実行する	11
2-4-1. 医療従事者との良好なコミュニケーションをとり、治療プランを協議できる	11
2-4-2. 共同して治療プランを実行する	11
2-5. 実行した薬物療法の有効性・安全性をモニタリングし、必要に応じてプランの修正を提案する	11
2-5-1. 薬物療法の有効性・安全性のモニタリングについて	11
2-5-2. 薬物療法プランの変更を提案する	11
2-6. 副作用について理解し、個々の患者に合わせた副作用対策を提案する	12
2-6-1. 副作用に関する知識について	12
2-6-2. 個々の患者に対する副作用対策の提案について	12
2-7. 医薬品に関する情報を適時適切に収集・評価し、必要な情報を医療従事者に提供する	12
2-7-1. 医薬品情報の収集と評価について	12
2-7-2. 医療従事者への医薬品情報提供について	12
2-8. 患者・介護者と良好なコミュニケーションをとり、薬物療法の選択等に関して患者を支援し、医薬品の使用法等に関して患者や介護者に合わせて指導する	12
2-8-1. 患者・介護者との良好なコミュニケーションと薬物療法の選択等に関する患者支援について	12
2-8-2. 患者・介護者の理解力に合わせて、医薬品の使用法等について指導できる	13
3. 薬物療法に関連する情報の検索、創出、評価、提供に関する知識・技能	13
3-1. 薬物療法に関連する情報を医薬品情報源から適切に検索できる	13

3-2. 論文を生物統計、内的妥当性／外的妥当性、統計学的有意／臨床的有意の視点から批判的に吟味し、活用できる	13
3-3. 収集した情報について医療従事者、患者、学生等に合わせて提供したり、教育できる	13
3-4. 研究プランを立案（仮説の生成、研究デザイン、プロトコル作成）できる	13
3-5. 研究倫理に則り研究を実施できる	14
3-6. 研究成果から論文を執筆し公表できる	14
4. 薬物療法専門薬剤師に必要な知識	14
4-1. 各領域の各種疾患等に関する一般的知識	14
4-1-1. 精神疾患	14
4-1-1-1. 統合失調症	14
4-1-1-2. うつ病エピソード	15
4-1-1-3. 躁病エピソード	15
4-1-1-4. 神経症性障害	16
4-1-1-5. 認知症	16
4-1-1-6. 多動性障害	16
4-1-1-7. 薬物依存	17
4-1-2. 神経・筋疾患	18
4-1-2-1. てんかん	18
4-1-2-2. パーキンソン病	18
4-1-2-3. 振戦	19
4-1-2-4. 筋委縮性側索硬化症	19
4-1-2-5. 重症筋無力症	20
4-1-2-6. 頭痛・偏頭痛	20
4-1-2-7. 疼痛	20
4-1-2-8. 末梢神経障害	21
4-1-3. 骨・関節疾患	22
4-1-3-1. 骨粗鬆症	22
4-1-3-2. 変形性関節症	22
4-1-3-3. 関節リウマチ	23
4-1-4. 免疫疾患	23
4-1-4-1. アレルギー	23
4-1-4-2. アナフィラキシー	24
4-1-4-3. 全身性エリテマトーデス（SLE）	25
4-1-4-4. ベーチェット病	26
4-1-4-5. 臓器移植（造血幹細胞移植は除く）	26
4-1-5. 心臓・血管系疾患	27
4-1-5-1. 高血圧症	27

4-1-5-2.	低血圧症	28
4-1-5-3.	虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）	28
4-1-5-4.	不整脈	29
4-1-5-5.	心不全	29
4-1-5-6.	心筋症	30
4-1-5-7.	末梢閉塞性動脈疾患	30
4-1-5-8.	肺高血圧症	31
4-1-5-9.	肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症	31
4-1-5-10.	脳卒中	32
4-1-6.	腎・泌尿器疾患	32
4-1-6-1.	慢性腎疾患（CKD）（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群を含む）	32
4-1-6-2.	腎不全	33
4-1-6-3.	透析	34
4-1-6-4.	尿路結石	34
4-1-6-5.	神経因性膀胱・過活動膀胱	35
4-1-6-6.	前立腺肥大症	35
4-1-6-7.	性機能不全	36
4-1-7.	産科婦人科疾患	36
4-1-7-1.	月経困難症	36
4-1-7-2.	更年期障害	37
4-1-7-3.	子宮内膜症	37
4-1-7-4.	妊娠悪阻	38
4-1-7-5.	切迫流産	39
4-1-7-6.	陣痛微弱	39
4-1-7-7.	不妊症	40
4-1-7-8.	避妊	40
4-1-8.	呼吸器疾患	41
4-1-8-1.	気管支喘息	41
4-1-8-2.	慢性閉塞性肺疾患（COPD）[肺気腫・慢性気管支炎]	41
4-1-8-3.	びまん性汎細気管支炎（DPB）	42
4-1-8-4.	間質性肺炎	43
4-1-8-5.	喫煙依存（ニコチン依存症）	43
4-1-8-6.	睡眠時無呼吸症候群	44
4-1-9.	消化器疾患	44
4-1-9-1.	消化性潰瘍	44
4-1-9-2.	逆流性食道炎	45
4-1-9-3.	潰瘍性大腸炎	45
4-1-9-4.	クローン病	46

4-1-9-5. 過敏性腸症候群	46
4-1-9-6. 下痢	47
4-1-9-7. 便秘	47
4-1-9-8. 悪心・嘔吐	48
4-1-9-9. 腸閉塞	48
4-1-9-10. 痔疾患	49
4-1-9-11. 肝硬変	49
4-1-9-12. 肝炎	49
4-1-9-13. 胆石症	50
4-1-9-14. 薬物性肝障害	50
4-1-9-15. 膵炎	51
4-1-10. 血液および造血器疾患	51
4-1-10-1. 貧血	51
4-1-10-2. 紫斑病	52
4-1-10-3. 播種性血管内凝固症候群 (DIC)	52
4-1-10-4. 血友病	53
4-1-10-5. 白血球減少症	53
4-1-10-6. 血小板減少症	54
4-1-11. 感覚器疾患	54
4-1-11-1. 緑内障	54
4-1-11-2. 白内障	55
4-1-11-3. 糖尿病性網膜症	55
4-1-11-4. 加齢黄斑変性	56
4-1-11-5. 副鼻腔炎	56
4-1-11-6. メニエール病	57
4-1-11-7. 花粉症	57
4-1-11-8. アレルギー性鼻炎	58
4-1-11-9. アレルギー性結膜炎	58
4-1-11-10. 味覚障害	59
4-1-12. 内分泌・代謝疾患	59
4-1-12-1. 甲状腺機能亢進症・低下症	59
4-1-12-2. 糖尿病	60
4-1-12-3. 脂質異常症	60
4-1-12-4. 痛風・高尿酸血症	61
4-1-12-5. 副甲状腺疾患	61
4-1-12-6. 尿崩症	62
4-1-13. 皮膚疾患	62
4-1-13-1. 尋常性ざ瘡	62

4-1-13-2. アトピー性皮膚炎	63
4-1-13-3. 白癬	63
4-1-13-4. 乾癬	64
4-1-13-5. 帯状疱疹	64
4-1-13-6. 熱傷	65
4-1-13-7. 褥瘡	65
4-1-13-8. 接触皮膚炎	66
4-1-14. 感染症	66
4-1-14-1. 感染症分類と起炎微生物	66
4-1-14-2. 呼吸器感染症	67
4-1-14-3. 尿路感染症	67
4-1-14-4. 眼感染症	68
4-1-14-5. 中耳炎	68
4-1-14-6. HIV 感染症	68
4-1-14-7. 深在性真菌症	69
4-1-14-8. 中枢神経系感染症	69
4-1-14-9. 発熱性好中球減少症	70
4-1-14-10. 胃腸感染症	70
4-1-14-11. 婦人科感染症	71
4-1-14-12. 感染性心内膜炎	71
4-1-14-13. 敗血症	71
4-1-14-14. 性感染症	72
4-1-14-15. 皮膚／軟部組織感染症	72
4-1-14-16. 結核	73
4-1-15. 悪性腫瘍	73
4-1-15-1. 食道がん	73
4-1-15-2. 胃がん	74
4-1-15-3. 大腸がん	74
4-1-15-4. 肝がん	75
4-1-15-5. 膵がん	75
4-1-15-6. 肺がん	76
4-1-15-7. 乳がん	76
4-1-15-8. 白血病	77
4-1-15-9. 悪性リンパ腫	79
4-1-15-10. 多発性骨髄腫 (MM)	80
4-1-15-11. 子宮がん	80
4-1-15-12. 卵巣がん	82
4-1-15-13. 腎がん	81

4-1-15-14. 膀胱がん	82
4-1-15-15. 皮膚がん	83
4-1-15-16. 頭頸部がん	84
4-1-15-17. 前立腺がん	84
4-1-15-18. 脳腫瘍	84
4-1-15-19. がんの支持療法	85
4-1-15-20. 緩和ケア	86
4-1-15-21. 造血幹細胞移植	86
4-1-16. その他の疾患	87
4-1-16-1. 酸・塩基平衡異常	87
4-1-16-2. 電解質異常	87
4-1-16-3. 栄養欠乏症	88
4-2. 薬物療法に関する知識	88
4-2-1. 医薬品の分類・薬理作用・副作用・薬物体内動態・薬物相互作用・特殊集団への投与・剤形の特徴・添加物・含量規格・使用上の留意点などの薬学的知識	88
4-2-2. 医薬品について承認された効能効果・用法用量（保険適用の範囲）	89
4-2-3. 医薬品の副作用の症状、好発時期、初期症状、対処法	88
4-2-4. 各種疾患に関する薬物療法ガイドライン	89
4-2-5. 医薬品管理に関する各種規制（RMP、管理薬など）	89
4-2-6. 医薬品の反応性に関連する薬理遺伝学	89
4-2-7. 医薬品のベネフィット／リスクの評価に必要な薬剤経済学	89
4-3. 倫理・ヒューマニズムに関する知識	90
4-4. 健康増進の知識：健康助言／教育／指導、ワクチン接種、生活指導（疾病予防とヘルスプロモーション）、代替医療	90
4-4-1. 健康助言/教育/指導	90
4-4-2. ワクチン接種	90
4-4-3. 生活指導（疾病予防とヘルスプロモーション）	90
4-4-4. 代替医療	90

1. 到達目標

薬物療法専門薬剤師をめざす者（以下、研修者）は、本研修カリキュラムにしたがって、薬物療法専門薬剤師の職務に必要な幅広い領域の薬物療法における高度な薬学知識・臨床知識・専門的技術を修得し臨床経験を積むとともに、相応しい態度を身につける 4-1-15-2。

- I. 医療における薬剤師の役割を理解し、医師、看護師、その他の医療従事者と良好な意思疎通を図り、医療チームに参画すること。
- II. 十分な処方箋の監査と調剤を正確かつ安全に遂行する技術と知識を修得すること。さらに、薬物療法の安全確保対策を立案し、医療従事者への指導・周知を行うこと。
- III. 患者にとって最適な薬物療法を提供するため、個々の患者の状態を的確に把握し、副作用や治療効果をモニタリングすること。さらに、投与量の調整や投与方法の変更、新たな薬物療法の提案など、医療チームに貢献すること。
- IV. 患者および医療従事者からの薬物療法に関する相談に適切に対応できること。
- V. 最新の医薬品情報や臨床情報・ガイドライン等を、国内外のデータベースや文献情報から収集し、重要な薬物療法に関する論文を読みこなし、評価し、適切に提供できること。
- VI. 日進月歩する医療の最新知識と技術を常に学びつつ、患者がより有効かつ安全な薬物療法の恩恵を受けることができるように、薬物療法の向上に継続的に努力する心構えと態度を身につけること。

現時点の「研修ガイドライン」は、本コアカリキュラムの内容に相当するものとする。

本コアカリキュラムの各項目の詳細については、各研修施設の特性を考慮して決定する。

2. 薬物療法専門薬剤師の役割と必要な臨床能力（5年間で研修）

研修者は、薬学知識・臨床知識・専門的技術を基礎とし、医療チームにおいて自らが担当となって各種疾患を有する患者への薬学的ケアを実践できる。

2-1. 患者から収集した情報、および身体所見、腎機能、肝機能、血液学的検査などの指標に基づいて、薬物療法の妥当性を評価する

2-1-1. 患者情報の収集について

1. 患者や家族との面談から、現病歴、合併症、投薬歴、副作用歴、アレルギー歴、妊娠またはその可能性の有無、授乳の有無等、薬物療法に必要な情報収集を実践できる。
2. 周術期および各種検査時に休止すべき薬剤を評価し提案できる。
3. 持参薬、一般薬の使用状況から疾患を理解し、服薬アドヒアランスを評価する。
4. 診療録、看護記録、画像所見等から必要な情報を収集し、疾患の重症度、治療目的、治療方針を理解できる。
5. 臨床検査値の変化から、薬物動態に影響する臓器障害や、薬物の効果および副作用に関する情報を評価できる。

2-1-2. 薬物療法の妥当性の評価について

1. 各疾患のガイドラインから、実際の薬物療法の妥当性を評価する。
2. 小児、高齢者、妊婦、臓器機能低下等、特殊な患者に対する薬物療法の妥当性を評価する。
3. 患者の理解力、身体所見、検査所見より、薬物療法の問題点を評価する。

2-2. 薬物療法に関連するプロブレムリストに基づいて治療目標を理解し、個々の患者に最適な薬物療法のプラン（変更を含む）を提案できる

2-2-1. 標準治療、代替治療を含め、治療目標を理解する

1. 治療効果および副作用をモニタリングするための的確な臨床指標を理解できる。
2. 標準治療について、臨床試験等による治療成績から、治療目標を理解できる。
3. 代替治療について、臨床試験等による治療成績から、治療目標を理解できる。

2-2-2. 問題点を把握し、個々の患者に最適な薬物療法プランを提案する

1. 生理的要因、病態的要因、遺伝的要因から治療反応性を予測し、最適な治療方法を協議できる。
2. 併用薬による薬物動態への影響を考慮し、最適な治療方法を提案できる。
3. 治療歴や服薬アドヒアランスを考慮し、最適な治療方法を提案できる。
4. 副作用を軽減するための薬物療法や用法用量の変更を提案できる。

2-3. 必要に応じて、薬物動態に基づく処方設計を実践する

2-3-1. 薬物動態に関する基礎知識について

1. 代表的な血中濃度モニタリング（TDM）対象薬物の動態学的特徴を概説できる。
2. 生理的要因、病態的要因、遺伝的要因が薬物動態に与える影響を概説できる。
3. 代表的な薬物間相互作用について概説できる。
4. 透析時における腎排泄型薬物の投与方法を理解できる。

2-3-2. 薬物動態学的な解釈に基づく処方設計と薬物血中濃度のモニタリングについて

1. 薬物動態学的パラメータあるいはポピュレーション・ファーマコキネティクスの手法を用いて個々の患者に応じた投与プランを提案できる。
2. 薬物血中濃度モニタリングの必要性を説明し、そのタイミングについて提案できる。

2-3-3. 薬物血中濃度の測定結果の解析について

1. 薬物動態の解析に必要な患者情報、採血情報、医薬品情報収集を実践できる。
2. 生理的要因、病態的要因、遺伝的要因等の患者背景を踏まえ、薬物血中濃度の測定結果の解析を実践できる。
3. 予測値と実測値が乖離している場合、その原因について考察し、適切な対応を実践できる。

2-4. 医師、その他の医療従事者と良好なコミュニケーションをとり、共同して治療プランを実践する

2-4-1. 医療従事者との良好なコミュニケーションをとり、治療プランを協議できる

1. 医療従事者との話し合いから、薬物療法に必要な情報収集を実践できる。
2. 治療方針を理解し、医薬品を適正使用するための情報提供を実践できる。

2-4-2. 協働して治療プランを実践する

1. クリティカルパスやワークシートを用い、医療従事者間で情報を共有しながら薬物療法を実践できる。
2. カンファレンス等で、治療における問題点を共有し、適切な薬物療法について提案できる。

2-5. 実行した薬物療法の有効性・安全性をモニタリングし、必要に応じてプランの修正を提案する

2-5-1. 薬物療法の有効性・安全性のモニタリングについて

1. 予想される薬物療法の有効性および副作用のリスクと初期症状について概説できる。
2. 臨床検査値や画像所見の推移から、薬物療法の有効性と安全性を理解できる。
3. 患者の自覚症状や訴えから、薬物療法の有効性と安全性について医師と協議できる。

2-5-2. 薬物療法プランの変更を提案する

1. 期待する治療効果が不十分な場合、エビデンスに基づいた代替治療について提案し、医師と協議できる。

2-6. 副作用について理解し、個々の患者に合わせた副作用対策を提案する

2-6-1. 副作用に関する知識について

1. 副作用の発現機序とその発現時期を概説できる。
2. 副作用の発現頻度と初期症状について概説できる。
3. 副作用発現や重症度に影響するリスクファクターについて概説できる。
4. 副作用発現時の減量および中止基準等の対処法を概説できる。

2-6-2. 個々の患者に対する副作用対策の提案について

1. 個々の患者に対して、副作用のリスクファクターを把握する。
2. 個々の患者の副作用対策として、臨床検査および薬物血中濃度モニタリングの必要性やタイミングを提案できる。
3. 個々の患者に対して、副作用の重症度や緊急性、原疾患の増悪などの危険性を理解し、中止、減量、他剤変更等について協議できる。

2-7. 医薬品に関する情報を適時適切に収集・評価し、必要な情報を医療従事者に提供する

2-7-1. 医薬品情報の収集と評価について

1. 医薬品の基本的な情報源の種類と特徴について理解できる。
2. 求められる医薬品情報の網羅性、速報性を考慮して情報収集を実践できる。
3. 情報源の種類や研究デザイン等から、情報の信頼性を評価できる。

2-7-2. 医療従事者への医薬品情報提供について

1. 医療従事者からの質問の意図や職種に応じた医薬品情報のニーズを理解し、適切に情報を加工し提供できる。
2. 回答に関する根拠や理由を明確に述べ、必要に応じて調査した文献名や文献の写しを添えて情報を提供できる。
3. 情報提供した内容が利用されていない場合には、原因を分析して情報の収集・評価・加工・提供の各工程を見直すことができる。

2-8. 患者・介護者と良好なコミュニケーションをとり、薬物療法の選択等に関して患者を支援し、医薬品の使用法等に関して患者や介護者に合わせて指導できる

2-8-1. 患者・介護者との良好なコミュニケーションと薬物療法の選択等に関する患者支援について

1. 患者・介護者のプライバシーに配慮した面談を実践できる。
2. 患者・介護者との面談から、患者・介護者のニーズを理解できる。
3. 患者・介護者との面談から、薬物療法を評価し、継続の可否や新規処方必要性、剤形選択等について医療従事者と協議できる。

2-8-2. 患者・介護者の理解力に合わせ、医薬品の使用法等について指導できる

1. 医薬品に関する基本的な情報について、患者の理解度に合わせ、理解しやすい言葉で指導できる。
2. 自己注射剤の注入器、自己血糖測定器、吸入補助器具等の使用方法について、患者の理解力や運動能力に合わせ指導できる。

3. 薬物療法に関連する情報の検索、創出、評価、提供に関する知識・技能（5年間で修得） 研修者は、以下の項目に関する知識・技能を修得しなければならない。

3-1. 薬物療法に関連する情報を医薬品情報源から適切に検索できる

1. 一次、二次、および三次資料の代表例を列挙できる。
2. 一次、二次、および三次資料の特徴と使い分けを説明できる。

3-2. 論文を生物統計、内的妥当性／外的妥当性、統計学的有意／臨床的有意の視点から批判的に吟味し、活用できる

1. 臨床上的問題を PICO により定式化できる。
2. 相対リスク減少 (RRR)、絶対リスク減少 (ARR) および治療必要数 (NNT) を説明し、計算できる。
3. 仮説検定における第一種の過誤と第二種の過誤について説明できる。
4. 代表的な臨床研究デザインの種類と特徴を説明できる。
5. 臨床研究におけるバイアスと交絡について説明できる。
6. 臨床研究における利益相反について説明できる。
7. 臨床研究におけるエンドポイントの妥当性について評価できる。
8. 臨床研究論文の外的妥当性について説明できる。

3-3. 収集した情報について医療従事者、患者、学生等に合わせて提供したり、教育できる

1. 収集した医薬品情報を、使用目的に応じて加工や再構築できる。
2. 多面的な視点に基づいて、情報の価値を評価し、提供できる。

参考書籍等：

1. 医薬品情報学第5版 東京大学出版 2021

3-4. 研究プランを立案（仮説の生成、研究デザイン、プロトコル作成）できる

1. 薬物療法上の問題点を発見し、解決のための仮説を立案できる。

2. 代表的な研究デザイン(コホート研究、ケースコントロール研究、ランダム化比較試験など)について説明できる。
3. 仮説を基に、適切なエンドポイントを立案できる。
4. 適切な研究デザインを選択し、プロトコル作成を実践できる。

3-5. 研究倫理に則り研究を実施できる

1. ヘルシンキ宣言について概説できる。
2. 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を概説できる。
3. 倫理委員会の機能と役割について説明できる。
4. 研究計画書および同意説明文書作成を実践できる。

3-6. 研究成果から論文を執筆し公表できる

1. 収集するデータに対する適切な統計学的手法を選択できる。
2. 過去の報告と比較し、新規性や研究の意義を説明できる。
3. 論文構成を理解し、投稿規定および執筆規定に準じて論文執筆を実践できる。

参考書籍等：

1. 日本医療薬学会 がん専門薬剤師養成研修ガイドライン (2021年4月 第5版)

4. 薬物療法専門薬剤師に必要な知識 (5年間で修得)

研修者は、以下の項目に関する知識を修得しなければならない。

4-1. 各領域の各種疾患等に関する一般的知識

以下の疾患について、疫学、発症機序、危険因子、臨床所見、診断基準、標準的治療の知識を修得する。

4-1-1. 精神疾患：統合失調症、うつ病エピソード、躁病エピソード、神経症性障害、認知症、多動性障害、薬物依存

4-1-1-1. 統合失調症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。

3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 治療薬の血中濃度モニタリングについて説明できる。

参考書籍等：

1. DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引、American Psychiatric Association、医学書院、2014
2. 病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅱ精神・脳神経系疾患/消化器疾患 改訂第2版、編集：日本医療薬学会、南江堂、2018

4-1-1-2. うつ病エピソード

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 日本うつ病学会治療ガイドラインⅡ. 大うつ病性障害 2016、日本うつ病学会 気分障害の治療ガイドライン作成委員会、2016
<https://www.secretariat.ne.jp/jsmd/iinkai/katsudou/data/20190724-02.pdf>

4-1-1-3. 躁病エピソード

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 治療薬の血中濃度モニタリングについて説明できる。

参考書籍等：

1. 日本うつ病学会治療ガイドラインⅠ. 双極性障害 2020、日本うつ病学会 気分障害の治療ガイドライン作成委員会、2020

https://www.secretariat.ne.jp/jsmd/iinkai/katsudou/data/guideline_sokyoku2020.pdf

4-1-1-4. 神経症性障害

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 神経症性障害の治療ガイドライン、編集：「精神科治療学」編集委員会、星和書店、2011

4-1-1-5. 認知症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 認知症疾患診療ガイドライン 2017、監修：日本神経学会、編集：「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会、2017

https://www.neurology-jp.org/guidelinem/nintisyo_2017.html

4-1-1-6. 多動性障害

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. コンサータ適正使用ガイド、ヤンセンファーマ株式会社、2020
2. インチュニブ適正使用ガイド、シオノギ製薬、武田薬品工業株式会社、2021
3. 注意欠如・多動症-ADHD-の診断・治療ガイドライン 第4版、編著：ADHDの診断・治療指針に関する研究会、齊藤万比古、じほう、2016

4-1-1-7. 薬物依存

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 身体依存、精神依存について説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 依存や乱用を誘発する薬物等を説明できる。

参考書籍等：

1. 新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン、監修：新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン作成委員会. 編集：樋口 進、齋藤利和、湯本洋介、新興医学出版社、2018
2. 新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドラインに基づいたアルコール依存症の診断治療の手引き 第1版、日本アルコール医学会、日本アルコール関連問題学会、2018
3. レグテクト情報サイト、<http://www.nippon-shinyaku.co.jp/regtect/>
4. DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引、American Psychiatric Association、医学書院、2014

4-1-2. 神経・筋疾患：てんかん、パーキンソン病、振戦、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、頭痛・片頭痛、疼痛、末梢神経障害

4-1-2-1. てんかん

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序・危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. てんかん発作と脳波分類を説明できる。
3. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 治療薬の血中濃度モニタリングについて説明できる。

参考書籍等：

1. てんかん治療ガイドライン 2018、監修：日本神経学会（協力学会：日本てんかん学会、日本小児神経学会、日本神経治療学会）、編集：「てんかん治療ガイドライン」作成委員会、2018
https://www.neurology-jp.org/guidelinem/tenkan_2018.html

4-1-2-2. パーキンソン病

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 薬剤性パーキンソンニズムを誘発する薬剤を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. パーキンソン病治療ガイドライン 2018、監修：日本神経学会（協力学会：日本神経治療学会、日本脳神経外科学会、日本定位・機能神経外科学会、日本リハビリテーション医学会）、編集：

「パーキンソン病診療ガイドライン」作成委員会、2018
https://www.neurology-jp.org/guidelinem/parkinson_2018.html

4-1-2-3. 振戦

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、振戦の分類を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 振戦を誘発する薬剤を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 標準的神経治療：本態性振戦、監修：日本神経治療学会、編集：日本神経治療学会治療指針作成委員会、2011
<https://www.jsnt.gr.jp/guideline/img/hontai.pdf>

4-1-2-4. 筋萎縮性側索硬化症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 筋萎縮性側索硬化症診療ガイドライン 2013、監修：日本神経学会（協力機関：厚生労働省「神経変性疾患に関する調査研究」班）、編集：「筋萎縮性側索硬化症診療ガイドライン」作成委員会、2013
http://www.neurology-jp.org/guidelinem/als2013_index.html

4-1-2-5. 重症筋無力症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準および診断に用いる臨床検査方法を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 重症筋無力症に関する禁忌項目がある医薬品を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 免疫抑制薬の血中濃度モニタリングについて説明できる。

参考書籍等：

1. 重症筋無力症診療ガイドライン 2014、監修：日本神経学会（協力機関：日本神経治療学会，日本神経免疫学会，日本小児神経学会，厚生労働省「難治性疾患克服事業免疫性神経疾患に関する調査研究」班）、編集：「重症筋無力症診療ガイドライン」作成委員会、2014
<http://www.neurology-jp.org/guidelinem/mg.html>

4-1-2-6. 頭痛・偏頭痛

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、頭痛・偏頭痛の分類を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 頭痛の診療ガイドライン 2021、監修：日本神経学会・日本頭痛学会、日本神経治療学会、編集：頭痛の診療ガイドライン作成委員会、医学書院、2021
2. エムガルティ適正使用ガイド、日本イーライリリー株式会社、2021

4-1-2-7. 疼痛

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、疼痛の分類を説明できる。
2. がん疼痛と慢性疼痛の違いを概説できる。
3. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. がん疼痛および慢性疼痛における治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 標準的神経治療：慢性疼痛、監修：日本神経治療学会、編集：日本神経治療学会治療指針作成委員会、2010
<https://www.jsnt.gr.jp/guideline/img/mansei.pdf>
2. 慢性疼痛診療ガイドライン、監修：厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み制作研究事業）「慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」研究班、編集：慢性疼痛診療ガイドライン作成ワーキンググループ、真興交易（株）医書出版部、2021
<https://paincenter.jp/wp-content/uploads/2021/09/c094475ec01ad51ccd00ef75849e83d9-2.pdf>

4-1-2-8. 末梢神経障害

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、末梢神経障害の分類を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 末梢神経障害を誘発する薬剤を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン 改訂第2版、編集：日本ペインクリニック学会 神経

4-1-3. 骨・関節疾患：骨粗鬆症、変形性関節症、関節リウマチ

4-1-3-1. 骨粗鬆症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。
3. 骨のリモデリングについて概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いるX線、骨代謝マーカー、骨密度測定を概説できる。
4. 続発性骨粗鬆症の原因疾患を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会、ライフサイエンス出版、2015
2. 原発性骨粗鬆症診断基準（2012年度改訂版）、日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会合同 原発性骨粗鬆症診断基準改訂検討委員会、日本骨粗鬆症学会雑誌 21 巻 1号、9-21、2013

4-1-3-2. 変形性関節症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準と診断方法を概説できる。
3. 関連疾患を概説できる。

【治療】

1. 主な手術方法と利点について概説できる。

2. 手術以外の治療方法を概説できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。
7. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 変形性股関節症ガイドライン 2016、日本整形外科学会診療ガイドライン委員会、変形性股関節症診療ガイドライン策定委員会、南江堂、2016

4-1-3-3. 関節リウマチ

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準、臨床検査値、画像検査所見を概説できる。
3. 米国リウマチ学会（ACR）改善基準、DAS28 を用いた欧州リウマチ学会（EULAR）改善基準を概説できる。

【治療】

1. 関節リウマチ治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 合併症対策を提案できる。

参考書籍等：

1. 関節リウマチ診療ガイドライン 2020、日本リウマチ学会、診断と治療社、2020
2. RA 管理のための米国リウマチ学会ガイドライン、2002
3. 関節リウマチの分類基準（ACR/EULAR）, Ann Rheum Dis. 2010 Sep;69(9):1580-8.

4-1-4. 免疫疾患：アレルギー、アナフィラキシー、全身性エリテマトーデス（SLE）、ベーチェット病、臓器移植（造血幹細胞移植は除く）

4-1-4-1. アレルギー

【疫学・発症機序】

1. アレルギーを生じやすい薬物、食物等を概説できる。
2. アレルギーの免疫機序に基づく分類（クームス分類）を概説できる。

3. 肥満細胞、顆粒球、リンパ球、補体の役割を概説できる。
4. 発症に関わるケミカルメディエータを概説できる。

【診断】

1. アレルギー反応による全身症状、皮膚症状、臓器症状を概説できる。
2. アレルギーの原因物質の特定方法（皮膚反応試験、試験管内試験、負荷誘発試験）を概説できる。
3. 皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）の診断基準を概説できる。
4. 中毒性表皮壊死症（TEN）の診断基準を概説できる。
5. 薬剤性過敏症症候群（DIHS）の診断基準を概説できる。

【治療】

1. 臨床症状、重症度から適切な薬物療法を説明できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. Stevens-Johnson 症候群の早期発見と早期対応方法を概説できる。
6. TEN の早期発見と早期対応方法を概説できる。
7. DIHS の早期発見と早期対応方法を概説できる。
8. 脱感作療法を概説できる。

参考書籍等：

1. 重篤副作用疾患別対応マニュアル、スティーブンス・ジョンソン症候群（平成 29 年 6 月改訂）、編集：厚生労働省 <http://www.pmda.go.jp/files/000145167.pdf>
2. 重篤副作用疾患別対応マニュアル、中毒性表皮壊死症（中毒性表皮壊死融解症）（平成 29 年 6 月改訂）、編集：厚生労働省。<http://www.pmda.go.jp/files/000145364.pdf>
3. 重篤副作用疾患別対応マニュアル、薬剤性過敏症症候群（平成 19 年 6 月 27 日）、編集：厚生労働省 <http://www.pmda.go.jp/files/000145268.pdf>

4-1-4-2. アナフィラキシー

【疫学・発症機序】

1. 発症機序を概説できる。
2. 疾病素因を概説できる。
3. 誘発原因物質（高分子物質、薬物、食品等）を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義を概説できる。
2. 前駆症状を含む臨床所見を概説できる。
3. 病態生理を概説できる。
4. 診断基準を概説できる。
5. 鑑別すべき疾患を概説できる。
6. 臨床所見による重症度分類を概説できる。

【治療】

1. 早期発見と対応方法を概説できる。
2. 治療手順を概説できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. アドレナリン自己注射キットの使用方法を指導できる。
7. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 重篤副作用疾患別対応マニュアル、アナフィラキシー（令和元年9月改訂）、編集：厚生労働省 <http://www.pmda.go.jp/files/000143654.pdf>
2. エピペン注射液 0.15mg/ エピペン注射液 0.3mg 患者向医薬品ガイド（2018年4月更新）、編集：厚生労働省 http://www.info.pmda.go.jp/downfiles/ph/GUI/671450_2451402G2020_2_03G.pdf
3. アナフィラキシーガイドライン（2014年11月17日一部訂正）、編集：日本アレルギー学会 http://www.jsaweb.jp/modules/journal/index.php?content_id=4

4-1-4-3. 全身性エリテマトーデス（SLE）

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 疾病素因（遺伝的要因、環境要因）を概説できる。
3. 発症機序について概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、好発部位における身体所見を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 臨床検査所見（血液・尿検査、自己抗体）を概説できる。
4. SLEの重症度判定：SLEDAI（SLE disease activity index）ループス腎炎分類（国際腎臓病学会/腎病理学会、2004年）を概説できる。

【治療】

1. 疾患の活動度、障害臓器の重症度、病型、合併症の有無から、推奨される薬物療法を説明できる。
2. 副腎皮質ステロイド療法を説明できる。
3. 免疫抑制薬による治療を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 全身性エリテマトーデスの診断基準（米国リウマチ学会），*Arthritis Rheum.* 40:1725, 1997.

2. SLE の重症度判定, J Rheumatol. 29(2):288-91, 2002.
3. 全身性エリテマトーデス診療ガイドライン 2019、日本リウマチ学会、南山堂、2019

4-1-4-4. ベーチェット病

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症に関わる遺伝的要因を概説できる。
3. 発症機序を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、発症部位（主症状、副症状）における身体所見を概説できる。
2. 臨床検査所見（針反応テスト、血液検査、免疫学的検査、髄液検査）を概説できる。
3. 臨床診断基準、重症度分類（厚生労働省）を概説できる。

【治療】

1. 病態の重症度から、適切な薬物療法を説明できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 消化管、血管、神経病変に対する薬物療法を説明できる。
6. 副腎皮質ステロイド療法を説明できる。
7. シクロスポリンの血中濃度モニタリングについて説明できる。
8. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. ベーチェット病、編集：厚生労働省（2010 年小改訂）
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000067841.pdf>
2. ベーチェット病診療ガイドライン 2020、日本ベーチェット病学会監修、診断と治療社、2020

4-1-4-5. 臓器移植（造血幹細胞移植は除く）

【疫学・発症機序】

1. 臓器移植法を概説できる。
2. 各臓器移植（心移植、肺移植、腎移植、肝移植等）の現状と問題点を概説できる。
3. 各臓器移植の拒絶反応の危険因子、発症時期、発症率を概説できる。
4. 各臓器移植の生命予後を概説できる。

【診断】

1. 各臓器移植の適応を概説できる。
2. ドナー候補者との ABO 式血液型の適合性、HLA タイピング、リンパ球クロスマッチ試験を概説できる。
3. 各臓器移植の拒絶反応の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 各臓器移植における免疫抑制療法を説明できる。
2. 免疫抑制薬の血中濃度モニタリングについて説明できる。
3. 移植の合併症（感染症、拒絶反応、慢性臓器不全等）の発症時期を理解し、予防方法を説明できる。
4. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
5. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
6. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
7. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 免疫抑制薬 TDM 標準化ガイドライン 2018【臓器移植編】、編集：日本 TDM 学会、日本移植学会、金原出版、2018
2. 臓器の移植に関する法律（平成 21 年 7 月 17 日改正）
http://www.jotnw.or.jp/jotnw/law_manual/pdf/organtransplant-law.pdf

4-1-5. 心臓・血管系疾患：高血圧症、低血圧症、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、不整脈、心不全、心筋症、末梢閉塞性動脈疾患、肺高血圧症、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、脳卒中

4-1-5-1. 高血圧症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 二次性高血圧の原疾患を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準を概説できる。
2. 血圧測定法の特徴を説明できる。
3. 血圧値および危険因子に応じた心血管病の発症リスクを説明できる。
4. 検査と診断を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 高血圧治療の管理目標値を概説できる。
3. 第一選択薬と推奨される併用療法について説明できる。
4. 降圧薬の積極的適応や禁忌、慎重投与について説明できる。
5. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
6. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
7. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
8. 日常生活の注意点を指導できる。
9. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 高血圧治療ガイドライン 2019、編集：日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会、2019 https://www.jpnsnsh.jp/data/jsh2019/JSH2019_hp.pdf

4-1-5-2. 低血圧症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準を説明できる。
2. 低血圧をきたす病態や疾患を説明できる。
3. 診断に用いられる検査や臨床症状、病歴を説明できる。

【治療】

1. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
2. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 日常生活の注意点を指導できる。
5. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 失神の診断・治療ガイドライン(2012年改訂版)、編集：2011年度合同研究班、2012 http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2012_inoue_h.pdf

4-1-5-3. 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準を概説できる。
2. 虚血性心疾患の分類を概説できる。
3. 診断に用いられる検査や臨床症状、病歴を概説できる。

【治療】

1. 一次および二次予防における危険因子の管理目標値を説明できる。
2. スtent治療に伴う抗血小板薬併用療法の意義を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 経皮的冠動脈形成術や心臓バイパス術のメリット・デメリットを説明できる。
7. 日常生活の注意点を指導できる。

8. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 虚血性心疾患の一次予防ガイドライン（2012年改訂版）、編集：2011年度合同研究班、2012
http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2012_shimamoto_h.pdf
2. 心筋梗塞二次予防に関するガイドライン（2011年改訂版）、編集：2010年度合同研究班、2011
http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2011_ogawah_h.pdf

4-1-5-4. 不整脈

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準を説明できる。
2. 不整脈の分類を理解し、緊急性の高い不整脈を概説できる。
3. 各不整脈に特徴的な心電図所見を概説できる。

【治療】

1. 各種不整脈の治療ガイドラインを概説できる。
2. 抗不整脈薬の位置づけ(Vaughan Williams分類、Sicilian Gambit分類)を概説できる。
3. 副作用としてQT延長のリスクを持つ薬剤を説明できる。
4. 心房細動患者の脳梗塞リスクと抗凝固療法の重要性を説明できる。
5. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
6. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
7. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
8. カテーテルアブレーションや埋込み型除細動器など非薬物療法の適応を概説できる。
9. 日常生活の注意点を指導できる。
10. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 2020年改訂版 不整脈薬物治療に関するガイドライン 編者：2020年度合同研究班、2020
https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/01/JCS2020_0no.pdf
2. 心房細動治療（薬物）ガイドライン（2013年改訂版）、編集：2008年度合同研究班、2013
http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2013_inoue_h.pdf

4-1-5-5. 心不全

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序や危険因子、原因疾患を説明できる。

【診断】

1. 重症度分類を説明できる。

2. 検査と診断を概説できる。

【治療】

1. 急性心不全および慢性心不全の治療ガイドラインを概説できる。
2. ニューヨーク心臓協会（NYHA）分類やKillip分類、Forrester分類などの重症度分類に応じた治療方針を概説できる。
3. 心不全治療における心保護薬の位置づけや導入の意義を概説できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 両室ペーシングや補助人工心臓など非薬物療法の適応を概説できる。
7. 日常生活の注意点を指導できる。
8. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 急性・慢性心不全診療ガイドライン（2017年改訂版）、編集：2017年度合同研究班、2017
https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2017/06/JCS2017_tsutsui_h.pdf

4-1-5-6. 心筋症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 二次性心筋症の原疾患を説明できる。
3. 薬剤誘発性心筋症をきたす薬剤を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準、主な病態、疾患分類を説明できる。
2. 診断に用いられる検査や臨床症状、病歴を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 心筋症に伴う心不全や重症不整脈に対する治療方針を概説できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 心筋症診療ガイドライン（2018年改訂版）、編集：2018年度合同研究班、2018
https://www.j-circ.or.jp/old/guideline/pdf/JCS2018_tsutsui_kitaoka.pdf

4-1-5-7. 末梢閉塞性動脈疾患

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準、主な病態、疾患分類を説明できる。
2. 診断に用いられる検査や臨床症状、病歴を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 血管内治療やバイパス術など非薬物療法の適応を概説できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。
7. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 末梢閉塞性動脈疾患の治療ガイドライン（2015年改訂版）、編集：2014年度合同研究班、2014
https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/02/JCS2015_miyata_d.pdf

4-1-5-8. 肺高血圧症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準、主な病態、疾患分類を説明できる。
2. 診断に用いられる検査や臨床症状、病歴を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 肺血管拡張薬以外の支持療法（強心薬、利尿薬、抗凝固薬など）について説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 肺高血圧症治療ガイドライン（2017年改訂版）、2017年度合同研究班、2017 https://www.j-circ.or.jp/old/guideline/pdf/JCS2017_fukuda_h.pdf

4-1-5-9. 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準、疾患分類を説明できる。
2. 診断に用いられる検査や臨床症状、病歴を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン（2017年改訂版）編集：2017年度合同研究班、2017
https://j-circ.or.jp/old/guideline/pdf/JCS2017_ito_h.pdf

4-1-5-10. 脳卒中

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 診断基準と診断方法を概説できる。
3. 関連疾患を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 脳梗塞の病態および病期（急性期、慢性期）に応じた抗血栓薬の使用法を説明できる。
3. 脳卒中の病態および病期（急性期、慢性期）に応じた血圧管理の重要性を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。
7. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 脳卒中治療ガイドライン 2021、編集：脳卒中ガイドライン委員会、2021

4-1-6. 腎・泌尿器疾患：慢性腎疾患（CKD）（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群を含む）、腎不全、透析、尿路結石、神経因性膀胱・過活動膀胱、前立腺肥大症、性功能不全

4-1-6-1. 慢性腎疾患（CKD）（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群を含む）

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. CKD と各疾患の診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる血清クレアチニン、糸球体濾過速度（GFR）、尿タンパク等の検査値の意味を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活や食事制限の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト、監修：平田純生、木村健、竹内裕紀、編集：日本腎臓病薬物療法学会、じほう、2013
2. エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2018 、編集：日本腎臓学会、2018
https://minds.jcqhc.or.jp/docs/g1_pdf/G0001093/4/CKD.pdf
3. 腎臓病薬物療法実践ガイド、編集：丹羽利允、中山書店、2013。

4-1-6-2. 腎不全

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。
3. 疾患の発症機序による分類を説明できる。

【診断】

1. 疾患の分類を理解し、説明できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる血清クレアチニン、糸球体濾過速度（GFR）、尿タンパク等の検査値の意味を概説できる。

【治療】

1. 疾患の分類毎の治療ガイドラインを概説できる。
2. 各病型の治療の特徴と治療薬の正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト、監修：平田純生、木村健、竹内裕紀、編集：日本腎臓病薬物療法学会、じほう、2013
2. 腎臓病薬物療法実践ガイド、編集：丹羽利允、中山書店、2013

4-1-6-3. 透析

【疫学・発症機序】

1. 男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 透析に至る疾患の過程を説明できる。

【診断】

1. 透析導入基準（慢性期・急性期）を概説できる。
2. 診断に用いる血清クレアチニン、糸球体濾過速度（GFR）、尿タンパク等の検査値の意味を概説できる。

【治療】

1. 透析の種類と原理について概説できる。
2. 合併症に関して理解し、対策を提案できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方について説明できる。
4. 日常生活の注意点を指導できる。
5. 透析患者への精神的・社会的サポートに関して説明できる。

参考書籍等：

1. 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師テキスト、監修：平田純生、木村健、竹内裕紀、編集：日本腎臓病薬物療法学会、じほう、2013
2. 維持血液透析ガイドライン：血液透析導入、作成：日本透析医学会、維持血液透析ガイドライン：血液透析導入作成委員会、2013
<http://minds.jcqhc.or.jp/n/med/4/med0191/G0000684/0001>

4-1-6-4. 尿路結石

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断の際の主たる検査に関して概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。

4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等

1. 尿路結石症診療ガイドライン 2013 年版、編集：日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会、日本尿路結石症学会、2013
<http://minds.jcqhc.or.jp/n/med/4/med0022/G0000634/0021>

4-1-6-5. 神経因性膀胱・過活動膀胱

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 神経因性膀胱・過活動膀胱の発症機序、危険因子を説明できる。
3. 蓄尿と排尿のメカニズムを説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準を概説できる。
2. 排尿障害患者の臨床検査と身体所見について説明できる。

【治療】

1. 神経因性膀胱の治療法を概説できる。
2. 過活動膀胱の治療法を概説できる。
3. 神経因性膀胱・過活動膀胱治療薬の正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 過活動膀胱診療ガイドライン第2版、編集：日本排尿機能学会過活動膀胱診療ガイドライン作成委員会、リッチヒルメディカル（株）、東京、2015
2. 神経因性膀胱ベッドサイドマニュアル、編集：榊原隆次、中外医学社、東京、2014

4-1-6-6. 前立腺肥大症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序と症状を説明できる。
3. 下部尿路症状との関連を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、診断基準を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる検査について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインについて概説できる。
2. 治療薬の正しい使い方について説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 前立腺肥大症診療ガイドライン、編集：日本泌尿器科学会、2011
<http://minds.jcqhc.or.jp/n/med/4/med0014/G0000310/0001>

4-1-6-7. 性機能不全

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義について説明できる。
2. 診断基準について概説できる。
3. 診断に用いる検査について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインについて概説できる。
2. 治療薬の正しい使い方について説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 危険因子（喫煙、高血圧等）への対応を説明できる。

参考書籍等：

1. ED診療ガイドライン [第3版] 編集：日本性機能学会、日本泌尿器科学会、2018

4-1-7. 産科婦人科疾患：月経困難症、更年期障害、子宮内膜症、妊娠悪阻、切迫流産、陣痛微弱、不妊症、避妊

4-1-7-1. 月経困難症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率（程度と頻度）を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。
3. 月経困難症の症状について概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる検査ならびに診断手順について概説できる。

4. 疾患分類について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 婦人科外来編 2014、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医学会、2020

4-1-7-2. 更年期障害

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。
3. 更年期障害の症状について概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる検査ならびに診断手順について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 婦人科外来編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医学会、2020

4-1-7-3. 子宮内膜症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。
3. 子宮内膜症の症状について概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる検査ならびに診断手順について概説できる。
4. 進行期分類（R-ASRM 分類、Beecham 分類等）について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 主な手術方法と利点について説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。
7. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 婦人科外来編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、2020
2. 病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法 III 心臓・血管系疾患／腎疾患／泌尿・生殖器疾患改訂第2版、編集：一般社団法人日本医療薬学会、南江堂、2018
3. 研修ノート No.102 子宮内膜症・子宮腺筋症、公益社団法人日本産婦人科医会
<https://www.jaog.or.jp/notes/note8873/>

4-1-7-4. 妊娠悪阻

【疫学・発症機序】

1. 発症時期を概説できる。
2. 妊娠悪阻の症状について概説できる。

【診断】

1. 妊娠悪阻の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 産科編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、2020
2. 産婦人科診療ガイドライン - 婦人科外来編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科

4-1-7-5. 切迫流産

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を概説できる。
2. 切迫流産の症状について概説できる。

【診断】

1. 切迫流産の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる検査ならびに診断手順について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 産科編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、2020

4-1-7-6. 陣痛微弱

【疫学・発症機序】

1. 陣痛の発症時期について概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。
3. 陣痛の異常について概説できる。

【診断】

1. 陣痛微弱の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる検査ならびに診断手順について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 産科編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、2020

4-1-7-7. 不妊症

【疫学・発症機序】

1. 不妊症の原因について概説できる。
2. 男性不妊症について概説できる。

【診断】

1. 不妊症の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 原因検索の検査について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 婦人科外来編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、2020

4-1-7-8. 避妊

1. 避妊すべき病態について概説できる。
2. 避妊すべき薬物療法について説明できる。
3. 低用量経口避妊薬の使用に関するガイドラインを概説できる。
4. 避妊薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
5. 避妊薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
6. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
7. 主な避妊方法と利点について説明できる。
8. 緊急避妊法（EC）の実施法と留意点を概説できる。
9. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 産婦人科診療ガイドライン - 婦人科外来編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、2020
2. 産婦人科診療ガイドライン - 産科編 2020、編集：日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、2020
3. 緊急避妊法の適正使用に関する指針（平成 28 年度改訂版）、編集：日本産科婦人科学会、2016

4-1-8. 呼吸器疾患：気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、びまん性汎細気管支炎（DPB）、間質性肺炎、喫煙依存（ニコチン依存症）、睡眠時無呼吸症候群

4-1-8-1. 気管支喘息

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率、男女比、地域差や家族歴による発症、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子（個体因子、環境因子）を概説できる。
3. 喘息死の動向を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 気流制限、気道過敏性の亢進、アトピー素因の存在、気道炎症の存在に係る検査を概説できる。
4. 重症度別、発作強度別の症状を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 長期管理および急性増悪への治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 喘息予防・管理ガイドライン 2018、監修：一般社団法人日本アレルギー学会 喘息ガイドライン専門部会、協和企画、2018
2. 喘息と COPD のオーバーラップ(Asthma and COPD Overlap:ACO) 診断と治療の手引き 2018、編集：日本呼吸器学会喘息と COPD のオーバーラップ(Asthma and COPD Overlap:ACO) 診断と治療の手引き 2018 作成委員会、メディカルレビュー社、2017
3. 病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法 V 感染症／呼吸器疾患／皮膚疾患／感覚器疾患改訂第 2 版、編集：一般社団法人日本医療薬学会、南江堂、2018

4-1-8-2. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）[肺気腫・慢性気管支炎]

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子（外因性、内因性）を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 閉塞性換気障害による病期分類、病型分類を概説できる。
4. 診断に用いる呼吸機能検査、動脈血ガスについて概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 安定期および急性期への治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 非薬物療法について概説できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。
7. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. COPD（慢性閉塞性肺疾患）診断と治療のためのガイドライン第5版、編集：日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第5版作成委員会、メディカルレビュー社、2018
2. 喘息とCOPDのオーバーラップ(Asthma and COPD Overlap:ACO)診断と治療の手引き2018、編集：日本呼吸器学会喘息とCOPDのオーバーラップ(Asthma and COPD Overlap:ACO)診断と治療の手引き2018作成委員会、メディカルレビュー社、2017
3. 病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法 V 感染症／呼吸器疾患／皮膚疾患／感覚器疾患改訂第2版、編集：一般社団法人日本医療薬学会、南江堂、2018

4-1-8-3. びまん性汎細気管支炎（DPB）

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、遺伝子素因を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 閉塞性換気障害による病期分類、病型分類を概説できる。
4. 診断に用いる胸部理学的所見、画像検査所見、呼吸機能検査および血液ガスについて概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2019、編集：一般社団法人 日本呼吸器学会、メディカルレビュー社、2019
2. JAID/JSC 感染症治療ガイドライン—呼吸器感染症—、監修：一般社団法人日本感染症学会、公益社団法人日本化学療法学会、2014
http://www.chemotherapy.or.jp/guideline/jaidjsc-kansenshochiryo_kokyuki.pdf

4-1-8-4. 間質性肺炎

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子(疾病、感染、薬剤、放射線)を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 診断に用いる理学的所見、臨床検査(血液、呼吸機能)、画像検査について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き改訂第3版、編集：日本呼吸器学会びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会、南江堂、2016
2. 特発性肺線維症の治療ガイドライン2017、監修：日本呼吸器学会、南江堂、2017

4-1-8-5. 喫煙依存(ニコチン依存症)

【疫学・発症機序】

1. 喫煙の男女比、喫煙による健康被害とその発症率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を概説できる。
2. ニコチン依存症スクリーニングテストを概説できる。
3. 呼気一酸化炭素濃度測定を概説できる。

【治療】

1. ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 禁煙治療アプリについて概説できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 禁煙ガイドライン(2010年改訂版)、編集：日本呼吸器学会他9学会合同研究班、2011
<http://tobacco-control-research-net.jp/data/document/JCS2010murohara.h.pdf>
2. 禁煙治療のための標準手順書第7版、日本循環器学会・日本肺癌学会・日本癌学会・日本呼吸器学会、2020

https://j-circ.or.jp/kinen/anti_smoke_std/pdf/anti_smoke_std_rev7.pdf

3. 禁煙支援マニュアル（第二版）増補改訂版、編集：厚生労働省健康局健康課、2018
<https://www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/kin-en-sien/manual2/dl/addition01.pdf>

4-1-8-6. 睡眠時無呼吸症候群

【疫学・発症機序】

1. 発症男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査、経皮的動脈血酸素飽和度測定等の診断基準について概説できる。

【治療】

1. CPAP（Continuous Positive Airway Pressure）治療について概説できる。
2. マウスピースを用いた治療について概説できる。
3. 外科的手術について概説できる。
4. 日常生活の注意点を指導できる。
5. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診療ガイドライン 2020、編集：睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診療ガイドライン作成委員会、南江堂、2020

4-1-9. 消化器疾患：消化性潰瘍、逆流性食道炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、下痢、便秘、悪心・嘔吐、腸閉塞、痔疾患、肝硬変、肝炎、胆石症、薬物性肝障害、膵炎

4-1-9-1. 消化性潰瘍

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を説明できる。
2. 好発年齢、男女比、罹患率について概説できる
3. 攻撃因子と防御因子について説明できる。

【診断】

1. 主な病態や臨床所見を説明できる。
2. 診断に用いる検査手法を概説できる。
3. 病期分類について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 消化性潰瘍の原因別治療法を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。

4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. ヘリコバクター・ピロリ除菌療法を説明できる。
6. 内視鏡的治療、外科的治療について概説できる。

参考書籍等：

1. 消化性潰瘍診療ガイドライン 2020（改訂第 3 版）、編集：日本消化器病学会、南江堂、2020
2. 患者さんご家族のための消化性潰瘍ガイド、編集：日本消化器病学会、2018
https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/pdf/02_kaiyou.pdf

4-1-9-2. 逆流性食道炎

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を説明できる。
2. 好発年齢、男女比、罹患率について概説できる。
3. 誘発因子について説明できる。

【診断】

1. 主な病態や臨床所見を説明できる。
2. 診断に用いる検査手法を概説できる。
3. ロサンゼルス分類について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 外科的治療の適応について概説できる。
5. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 胃食道逆流症 (GERD) 診療ガイドライン 2021（改訂第 3 版）、編集：日本消化器病学会、南江堂、2021
2. 患者さんご家族のための胃食道逆流症 (GERD) ガイド、編集：日本消化器病学会、2018
https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/pdf/01_gerd.pdf

4-1-9-3. 潰瘍性大腸炎

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態や合併症を説明できる。
2. 検査手法と診断基準を概説できる。
3. 臨床経過による分類について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 病期ごとの治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 薬物療法以外の治療法について概説できる。
6. タクロリムスの血中濃度モニタリングについて説明できる。
7. 合併症対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 炎症性腸疾患 (IBD) 診療ガイドライン 2020 (改訂第 2 版)、編集：日本消化器病学会、南江堂、2020
2. 患者さんご家族のための炎症性腸疾患 (IBD) ガイド、編集：日本消化器病学会、2020
https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/pdf/13_ibd.pdf
3. 潰瘍性大腸炎、編集：難病情報センター
<https://www.nanbyou.or.jp/entry/62>

4-1-9-4. クローン病

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態や合併症を説明できる。
2. 検査手法と診断基準を概説できる。
3. 病型分類について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 病期ごとの治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 薬物療法以外の治療法について概説できる。
6. 合併症対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 炎症性腸疾患 (IBD) 診療ガイドライン 2020、編集：日本消化器病学会、南江堂、2020
2. 患者さんご家族のための炎症性腸疾患 (IBD) ガイド、編集：日本消化器病学会、2020
https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/pdf/13_ibd.pdf

4-1-9-5. 過敏性腸症候群

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。

2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 亜型分類について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 薬物療法以外の治療法について概説できる。

参考書籍等：

1. 過敏性腸症候群(IBS)診療ガイドライン 2020 (改訂第2版)、編集：日本消化器病学会、南江堂、2020
2. 患者さんとご家族のための過敏性腸症候群(IBS)ガイド、編集：日本消化器病学会、2016
https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/pdf/02_ibsr.pdf
3. わかりやすい内科学 (第4版)、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014

4-1-9-6. 下痢

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 関連疾患を説明できる。

【治療】

1. 下痢に対する治療法を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. わかりやすい内科学 (第4版)、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014

4-1-9-7. 便秘

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 関連疾患を説明できる。

【治療】

1. 便秘に対する治療法を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. わかりやすい内科学（第4版）、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014

4-1-9-8. 悪心・嘔吐

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 関連疾患を説明できる。

【治療】

1. 悪心・嘔吐に対する治療法を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. わかりやすい内科学（第4版）、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014

4-1-9-9. 腸閉塞

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 関連疾患を説明できる。
3. 診断に用いる検査手法を概説できる。

【治療】

1. 腸閉塞に対する治療法を概説できる。
2. 保存的治療について説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 外科的治療の適応について概説できる。

参考書籍等：

1. わかりやすい内科学（第4版）、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014

4-1-9-10. 痔疾患

【疫学・発症機序】

1. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断に用いる検査手法を概説できる。

【治療】

1. 痔疾患に対する治療法を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌、原則禁忌および相互作用を説明できる。
5. 外科的治療の適応について概説できる。

参考書籍等：

1. わかりやすい内科学（第4版）、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014。

4-1-9-11. 肝硬変

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断に用いる生化学的・血清学的検査を概説できる。
3. 重症度分類について概説できる。
4. 臨床経過について説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 成因に応じた治療法について説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 肝硬変診療ガイドライン 2020（改訂第3版）、編集：日本消化器病学会、南江堂、2020

4-1-9-12. 肝炎

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 成因による分類について概説できる。
3. 診断に用いる生化学的・血清学的検査を概説できる。
4. 臨床経過について説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 成因に応じた治療法について説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. B型肝炎治療ガイドライン、編集：日本肝臓学会、2021年
https://www.jsh.or.jp/lib/files/medical/guidelines/jsh_guidlines/B_v3.4.pdf
2. C型肝炎治療ガイドライン、編集：日本肝臓学会、2020年
https://www.jsh.or.jp/lib/files/medical/guidelines/jsh_guidlines/C_v8_20201005.pdf

4-1-9-13. 胆石症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 検査手法について概説できる。

【治療】

1. 主な手術方法と利点について概説できる。
2. 手術以外の治療方法を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 胆石症診療ガイドライン 2021（改訂第3版）、編集：日本消化器病学会、南江堂、2021
2. 患者さんとご家族のための胆石症ガイドブック、編集：日本消化器病学会、2019
https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/pdf/05_tansekisyuu.pdf

4-1-9-14. 薬物性肝障害

【疫学・発症機序】

1. 発症機序を説明できる。
2. 原因となる薬物を説明できる。

【診断】

1. 主な病態、合併症を説明できる。
2. 診断手順について概説できる。

【治療】

1. 根本的治療法について概説できる。
2. 薬物療法の対象となる病態を説明できる。

参考書籍等：

1. わかりやすい内科学（第4版）、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014

4-1-9-15. 肺炎

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 検査手法と診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 病期に応じた治療法について説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. わかりやすい内科学（第4版）、編集主幹：井村裕夫、文光堂、2014

4-1-10. 血液および造血器疾患：貧血、紫斑病、播種性血管内凝固症候群（DIC）、血友病、白血球減少症、血小板減少症

4-1-10-1. 貧血

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を概説できる。
2. 診断基準、臨床検査値を概説できる。
3. 貧血の形態学的な分類を概説できる。
4. 鉄欠乏性貧血（IDA）ならびに二次性貧血について概説できる。
5. 再生不良性貧血の重症度基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 鉄剤の適正使用による貧血治療指針 改訂 [第3版]、編集：日本鉄バイオサイエンス学会治療指針作成委員会、響文社、2015
2. ガイドライン外来診療 2020、日経 BP、2020

4-1-10-2. 紫斑病

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 診断基準、臨床検査値を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019年改訂版、臨床血液 60巻48号、877-896、2019
2. 血液内科ゴールデンハンドブック 改訂第2版、南江堂、2016

4-1-10-3. 播種性血管内凝固症候群（DIC）

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。
3. 止血機構について概説できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 診断基準、臨床検査値を概説できる。

【治療】

1. 治療目標を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 補充療法について説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 血液内科ゴールデンハンドブック 改訂第2版、南江堂、2016
2. 科学的根拠に基づいた感染症に伴う DIC 治療のエキスパートコンセンサス、日本血栓止血学会学術標準化委員会 DIC 部会、2009
<https://www.jsth.org/wordpress/wp-content/uploads/2015/04/DIC.pdf>
3. 科学的根拠に基づいた感染症に伴う DIC 治療のエキスパートコンセンサスの追補、日本血栓止血学会学術標準化委員会 DIC 部会、2014
https://www.jsth.org/wordpress/wp-content/uploads/2015/04/DIC_2.pdf

4-1-10-4. 血友病

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 診断基準、臨床検査値、画像検査所見を概説できる。
3. 遺伝相談ならびに出生前診断について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 血液内科ゴールデンハンドブック 改訂第2版、南江堂、2016
2. 後天性血友病 A 診療ガイドライン 2017 改訂版、日本血栓止血学会、2017

4-1-10-5. 白血球減少症

【疫学・発症機序】

1. 好発時期、発症年齢、頻度を概説できる。
2. 発症機序、リスク因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。

2. 診断基準、臨床検査値を概説できる。

【治療】

1. 治療方法を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用と対策を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 合併症対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 血液内科ゴールデンハンドブック 改訂第2版、南江堂、2016
2. 重篤副作用疾患別対応マニュアル 無顆粒球症（顆粒球減少症、好中球減少症）、厚生労働省、2007
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/11/dl/tp1122-1f13.pdf>

4-1-10-6. 血小板減少症

【疫学・発症機序】

1. 好発時期を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態、合併症を説明できる。
2. 診断基準、臨床検査値を概説できる。

【治療】

1. 治療方法を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 血液内科ゴールデンハンドブック 改訂第2版、南江堂、2016
2. 重篤副作用疾患別対応マニュアル 血小板減少症、厚生労働省、2007
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/11/dl/tp1122-1f17.pdf>

4-1-11. 感覚器疾患：緑内障、白内障、糖尿病性網膜症、加齢黄斑変性、副鼻腔炎、メニエール病、花粉症、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、味覚障害

4-1-11-1. 緑内障

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。

2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義と主な分類を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 点眼薬の使用方法・保存方法を指導できる。
5. 主な手術方法と術後合併症について概説できる。
6. 周術期に用いる薬剤の特徴および副作用について説明できる。

参考書籍等：

1. 緑内障診療ガイドライン（第4版）、日本眼科学会、2018
<https://www.nichigan.or.jp/Portals/0/resources/member/guideline/glaucoma4.pdf>
2. 病気とくすり 2021 基礎と実践 Expert's Guide、南山堂、2021

4-1-11-2. 白内障

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義と主な臨床症状を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 点眼薬の使用方法・保存方法を指導できる。
5. 主な手術方法と術後合併症を概説できる。
6. 周術期に用いる薬剤の特徴および副作用について説明できる。

参考書籍等：

1. 病気とくすり 2021 基礎と実践 Expert's Guide、南山堂、2021
2. 科学的根拠(evidence)に基づく白内障診療ガイドライン、日本白内障学会誌、2004

4-1-11-3. 糖尿病性網膜症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。
3. 重症度分類を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 症状の発症予防・進行抑制について説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 糖尿病診療ガイドライン 2019、編集：日本糖尿病学会、南江堂、2019
2. 糖尿病網膜症診療ガイドライン（第1版）、日本糖尿病眼学会、2020

4-1-11-4. 加齢黄斑変性

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、分類と主な臨床症状を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療指針を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 薬物療法以外の治療方法を概説できる。

参考書籍等：

1. 加齢黄斑変性の治療指針、日本眼科学会、2012
https://www.nichigan.or.jp/Portals/0/resources/member/guideline/aging_macular_degeneration.pdf
2. 萎縮型加齢黄斑変性の診断基準、日本眼科学会、2015
https://www.nichigan.or.jp/Portals/0/resources/member/guideline/macular_degeneration.pdf

4-1-11-5. 副鼻腔炎

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な臨床症状を説明できる。
2. 急性副鼻腔炎と慢性副鼻腔炎の病態の違いを概説できる。
3. 急性副鼻腔炎の主な原因微生物を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン 2010 年版、日本鼻学会、2010
https://minds.jcqhc.or.jp/docs/minds/ar/20130516_Guideline.pdf

4-1-11-6. メニエール病

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. メニエール病・遅発性内リンパ水腫診療ガイドライン 2020 年版、編集：日本めまい平衡医学会、金原出版、2020

4-1-11-7. 花粉症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序を説明できる。

【診断】

1. 花粉の植生・飛散時期の確認が重要であることを説明できる。
2. 症状の重症度分類を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

4. 点眼薬・点鼻薬の使用方法・保存方法を指導できる。
5. アレルゲン免疫療法、手術療法について概説できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症 2020年版、編集：日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会、ライフサイエンス、2020

4-1-11-8. アレルギー性鼻炎

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率を概説できる。
2. 発症機序を説明できる。

【診断】

1. アレルギー性鼻炎と原因の異なる鼻炎との違いを説明できる。
2. 診断上の注意点を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 点鼻薬の使用方法・保存方法を指導できる。
5. アレルゲン免疫療法、手術療法について説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 鼻アレルギー診療ガイドライン—通年性鼻炎と花粉症 2020年版、編集：日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会、ライフサイエンス、2020

4-1-11-9. アレルギー性結膜炎

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、罹患率、好発時期を概説できる。
2. 発症機序を説明できる。

【診断】

1. 臨床像・評価基準を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 抗原除去の回避・日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. アレルギー性結膜疾患診療ガイドライン（第3版）、日本眼科学会、2021
<https://www.nichigan.or.jp/member/journal/guideline/detail.html?itemid=429&dispmid=909>

4-1-11-10. 味覚障害

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢を概説できる。
2. 発症機序、原因、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 原因別の治療方法を概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 食事を含めた日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 味覚障害診療の手引き、金原出版、2006

4-1-12. 内分泌・代謝疾患：甲状腺機能亢進症・低下症、糖尿病、脂質異常症、痛風・高尿酸血症、副甲状腺疾患、尿崩症

4-1-12-1. 甲状腺機能亢進症・低下症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 甲状腺疾患の病態、臨床症状を説明できる。
2. 診断基準と診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療方法を説明できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 甲状腺疾患診療マニュアル 改訂第3版、編集：西川光重/成瀬光栄/田上哲也/伊藤公一、診断と治療社、2020

4-1-12-2. 糖尿病

【疫学・発症機序】

1. 罹患率、予後を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。
3. 糖代謝のメカニズムについて説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、病態分類、合併症を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 病態分類に応じた治療法を説明できる。
2. 治療薬の特徴と適切な使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 合併症治療薬の特徴と適切な使い方を説明できる。
6. 食事療法、運動療法について説明できる。
7. 日常生活の注意点を指導できる。
8. 自己血糖測定を説明できる。

参考書籍等：

1. 糖尿病治療ガイド 2020-2021、編集：日本糖尿病学会、文光堂、2020
2. 糖尿病療養指導ガイドブック、編集：日本糖尿病療養指導士認定機構、メディカルレビュー社、2021

4-1-12-3. 脂質異常症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、分類、主な病態、合併症を説明できる。
2. 診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。
6. 予防対策を説明できる。

参考書籍等：

1. 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017年版、編集：日本動脈硬化学会、日本動脈硬化学会、

ナナオ企画、2017

2. 動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症診療ガイド 2018 年版、編集：日本動脈硬化学会、伸企画、2018

4-1-12-4. 痛風・高尿酸血症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、主な病態を説明できる。
2. 病型分類、診断基準を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と適切な使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第3版、編集：日本痛風・尿酸核酸学会ガイドライン改訂委員会、診断と治療社、2018

4-1-12-5. 副甲状腺疾患

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。
3. 副甲状腺の解剖学的特徴を概説できる。
4. 副甲状腺ホルモンとカルシウム代謝機構を説明できる。

【診断】

1. 病態、臨床症状を説明できる。
2. 診断基準と診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療方法を説明できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活での注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 副甲状腺・骨代謝疾患診療マニュアル 改訂第2版、編集：平田結喜緒/竹内靖博/杉本利嗣/

4-1-12-6. 尿崩症

【疫学・発症機序】

1. 好発年齢、男女比、罹患率を概説できる。
2. 発症機序、危険因子を説明できる。
3. 下垂体後葉の解剖学的特徴を概説できる。
4. 抗利尿ホルモン（バソプレシン）の作用と分泌機構を説明できる。
5. 抗利尿ホルモン（バソプレシン）分泌に影響を与える因子を説明できる。

【診断】

1. 病態、臨床症状を説明できる。
2. 診断基準と診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療方法を説明できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 日常生活での注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. バソプレシン分泌低下症（中枢性尿崩症）の診断と治療の手引き（平成 30 年度改訂）、間脳下垂体機能障害の診断と治療の手引き（平成 30 年度改訂）pp15-17, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「間脳下垂体機能障害に関する調査研究」班、2018

4-1-13. 皮膚疾患：尋常性ざ瘡、アトピー性皮膚炎、白癬、乾癬、帯状疱疹、熱傷、褥瘡、接触皮膚炎

4-1-13-1. 尋常性ざ瘡

【疫学・発症機序】

1. 発症頻度、平均好発年齢、男女の発症の違いを概説できる。
2. 病因・発症機序、起因菌を説明できる。

【診断】

1. 発症部位、臨床像の経過、予後を概説できる。
2. 主たる皮疹による治療アルゴリズムを概説できる。
3. 患者へ質問すべき内容を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 皮疹や重症度に応じた治療薬を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。

4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 尋常性ざ瘡治療ガイドライン 2017、日本皮膚科学会ホームページ、2017
<https://www.dermatol.or.jp>

4-1-13-2. アトピー性皮膚炎

【疫学・発症機序】

1. 発症頻度、年齢による違いを概説できる。
2. 病因・発症機序を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義を説明できる。
2. 発症部位、臨床像の経過、予後を概説できる。
3. 診断基準を概説できる。
4. 重症度分類を概説できる。
5. 患者へ質問すべきことを説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 重症度に応じた治療薬を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. ステロイド外用剤の分類、使い分けを説明できる。
7. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2021、日本皮膚科学会ホームページ 2021
<https://www.dermatol.or.jp>

4-1-13-3. 白癬

【疫学・発症機序】

1. 部位による発症頻度の違いを概説できる。
2. 病因・発症機序を説明できる。
3. スポーツや老人ホームなどの利用頻度との関係を説明できる。

【診断】

1. 皮膚真菌症の診断基準を概説できる。
2. 特徴的な臨床症状を説明できる。
3. 発症部位、臨床像の経過、予後を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 部位に応じた治療薬を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 皮膚真菌症診療ガイドライン 2019、日本皮膚科学会ホームページ、2019
<https://www.dermatol.or.jp>

4-1-13-4. 乾癬

【疫学・発症機序】

1. 臨床病型による発症頻度の違い、男女の発症頻度の違いを概説できる。
2. 好発発症部位を概説できる。
3. 病因・発症機序を説明できる。
4. 肥満やメタボリックシンドロームとの関係を説明できる。

【診断】

1. 特徴的な臨床症状を説明できる。
2. 膿疱性乾癬を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 外用療法、紫外線療法、全身療法を説明できる。
3. 治療アルゴリズムを概説できる。
4. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
5. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
6. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
7. 生物学的製剤について説明できる。
8. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 膿疱性乾癬（汎発型）診療ガイドライン 2014年度版、日本皮膚科学会ホームページ、2014
<https://www.dermatol.or.jp>

4-1-13-5. 帯状疱疹

【疫学・発症機序】

1. 発症頻度、年齢による発症頻度の違いを概説できる。
2. 好発発症部位を概説できる。
3. 病因・発症機序、感染経路を説明できる。

【診断】

1. 一般検査、Tzanck 試験、血清学的診断を概説できる。
2. 特徴的な臨床症状を説明できる。
3. 帯状疱疹後神経痛を概説できる。

【治療】

1. 重症度に応じた薬物療法を説明できる。
2. 抗ウイルス薬の使用方法を説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 帯状疱疹後神経痛の薬物療法を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 本田まりこ、帯状疱疹・単純ヘルペスがわかる本、法研、2014

4-1-13-6. 熱傷

【疫学・発症機序】

1. 病因・発症機序を説明できる。
2. 好発発症部位を概説できる。
3. 化学熱傷、低温熱傷を説明できる。

【診断】

1. 熱傷重症度判定基準を概説できる。
2. 熱傷深度・受傷面積の評価を概説できる。
3. 膿疱性乾癬を概説できる。

【治療】

1. 輸液の適応を説明できる。
2. 感染対策を提案できる。
3. 外用薬の選択を説明できる。
4. 必要な検査について説明できる。

参考書籍等：

1. 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン-6：熱傷診療ガイドライン、日本皮膚科学会ホームページ、2017
<https://www.dermatol.or.jp>

4-1-13-7. 褥瘡

【疫学・発症機序】

1. 病因・発症機序を説明できる。
2. 好発発症部位を概説できる。
3. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. DESIGN 分類を概説できる。
2. 創面の評価を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 外用薬およびドレッシング材を説明できる。
3. 外用剤の基剤・剤形を説明できる。
4. 消毒・洗浄について説明できる。
5. 外科的治療や物理療法を概説できる。

参考書籍等：

1. 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン-2：褥瘡診療ガイドライン、日本皮膚科学会ホームページ、2017<https://www.dermatol.or.jp>

4-1-13-8. 接触皮膚炎

【疫学・発症機序】

1. 発症頻度を概説できる。
2. 病因・発症機序、主なアレルゲンを説明できる。

【診断】

1. 臨床的特徴と経過、予後を概説できる。
2. 刺激性とアレルギー性の違いを説明できる。
3. パッチテスト、スクラッチテスト等を概説できる。
4. 接触皮膚炎発症部位と主なアレルゲンを概説できる。
5. 光アレルギー性接触皮膚炎の原因物質を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 原因物質の除去を概説できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の副作用を説明でき、対策を提案できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
6. 日常生活の注意点を指導できる。

参考書籍等：

1. 接触皮膚炎診療ガイドライン 2020、日本皮膚科学会ホームページ、2020
<https://www.dermatol.or.jp>

4-1-14. 感染症：感染症分類と起炎微生物、呼吸器感染症、尿路感染症、眼感染症、中耳炎、HIV 感染症、深在性真菌症、中枢神経系感染症、発熱性好中球減少症、胃腸感染症、婦人科感染症、感染性心内膜炎、敗血症、性感染症、皮膚／軟部組織感染症、結核

4-1-14-1. 感染症分類と起炎微生物

1. 感染症法における感染症分類の定義と主な感染症名を説明できる。
2. 感染症法における感染症の届出について概説できる。
3. 临床上重要な微生物の分類について説明できる。
4. 感染症分類の主な感染症の検査方法を説明できる。

参考書籍等：

1. 薬剤師のための感染制御マニュアル、第4版、日本病院薬剤師会、薬事日報社、2017

4-1-14-2. 呼吸器感染症

【疫学・発症機序】

1. 肺炎、気道感染症の特徴を説明できる。
2. 市中肺炎、院内肺炎、誤嚥性肺炎の特徴と主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 呼吸器感染症の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 呼吸器感染症治療ガイドライン、日本感染症学会・日本化学療法学会、2014
2. 小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2017、小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会、協和企画、2017
3. 成人肺炎診療ガイドライン 2017、日本呼吸器学会、2017
4. 成人市中肺炎診療ガイドライン、日本呼吸器学会、2005
5. 成人院内肺炎診療ガイドライン、日本呼吸器学会、2008
6. 医療・介護関連肺炎診療ガイドライン、日本呼吸器学会、2011
7. 成人気道感染症の基本的考え方、日本呼吸器学会、2003

4-1-14-3. 尿路感染症

【疫学・発症機序】

1. 単純性尿路感染症、複雑性尿路感染症の特徴を説明できる。
2. 単純性尿路感染症、複雑性尿路感染症の主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 尿路感染症の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 単純性尿路感染症、複雑性尿路感染症の薬物療法のポイントを説明できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2019、日本感染症学会・日本化学療法学会、ライフサイエンス出版、2019

4-1-14-4. 眼感染症

【疫学・発症機序】

1. 感染性角膜炎の特徴を説明できる。
2. 感染性角膜炎の主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 感染性角膜炎の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 眼感染症に用いる抗菌点眼薬や眼軟膏の使い方を指導できる。

参考書籍等：

1. 感染性角膜炎診療ガイドライン（第2版）、日本眼科学会
<https://www.nichigan.or.jp/member/journal/guideline/detail.html?ItemId=293&dispmid=909>

4-1-14-5. 中耳炎

【疫学・発症機序】

1. 急性中耳炎の特徴を説明できる。
2. 急性中耳炎の主な原因微生物について説明できる。

【診断】

1. 急性中耳炎の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 中耳炎に用いる局所抗菌薬（点耳薬）の使用方法を指導できる。

参考書籍等：

1. 小児急性中耳炎診療ガイドライン 2018年版、編集：日本耳科学会、日本小児耳鼻咽喉科学会、日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会、金原出版、2018

4-1-14-6. HIV 感染症

【疫学・発症機序】

1. HIV 感染症と AIDS の特徴を説明できる。
2. 主な日和見感染症について説明できる。

3. 免疫再構築症候群 (IRIS) について説明できる。

【診断】

1. HIV 感染症の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 針刺し事故での対応を説明できる。

参考書籍等：

1. 抗 HIV 治療ガイドライン、(2021 年 11 月発行)、厚生労働行政推進調査事業費補助金 (エイズ対策政策研究事業) HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班
<http://www.haart-support.jp/guideline.htm>
2. HIV 感染症「治療の手引き」(2020 年 11 月発行)、日本エイズ学会 HIV 感染症治療委員会
<http://www.hivjp.org/>

4-1-14-7. 深在性真菌症

【疫学・発症機序】

1. 特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 診断方法を概説できる。

【治療】

1. 診断・治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 深在性真菌症の診断・治療ガイドライン 2014、深在性真菌症のガイドライン作成委員会、協和企画、2014

4-1-14-8. 中枢神経系感染症

【疫学・発症機序】

1. 細菌性髄膜炎の特徴を説明できる。
2. 細菌性髄膜炎の主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 細菌性髄膜炎の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴を説明できる。

3. 治療薬の正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 細菌性髄膜炎の診療ガイドライン、日本神経学会
<http://www.neurology-jp.org/guidelinem/zuimaku.html>

4-1-14-9. 発熱性好中球減少症

【疫学・発症機序】

1. 特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物を説明できる。
3. 好中球が減少する要因を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 予防投与について説明できる。
3. 経験的治療について説明できる。
4. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
5. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 発熱性好中球減少症 (FN) 診療ガイドライン 改訂第 2 版、編集：日本臨床腫瘍学会、南江堂、2017

4-1-14-10. 胃腸感染症

【疫学・発症機序】

1. 感染性胃腸炎の特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物について説明できる。

【診断】

1. 診断方法を概説できる。

【治療】

1. 偽膜性大腸炎の治療について説明できる。
2. ヘリコバクター・ピロリ除菌について説明できる。
3. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
4. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
5. 適切な支持療法を説明できる。

参考書籍等：

1. Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症診療ガイドライン、日本感染症学会・日本化学療法学会、2018

2. JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2015 —腸管感染症—、日本感染症学会・日本化学療法学会 http://www.chemotherapy.or.jp/guideline/jaidjsc-kansenshochiryo_choukan.html
3. 抗菌薬使用のガイドライン、編集：日本感染症学会・日本化学療法学会、協和企画、2005

4-1-14-11. 婦人科感染症

【疫学・発症機序】

1. 特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物を説明できる。
3. 感染誘因を説明できる。

【診断】

1. 婦人科感染症の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
2. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
3. 婦人科感染症の局所療法を説明できる。
4. 膣錠の使用方法を指導できる。

参考書籍等：

1. 抗菌薬使用のガイドライン：日本感染症学会・日本化学療法学会、協和企画、2005
2. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2019、日本感染症学会・日本化学療法学会、ライフサイエンス出版、2019

4-1-14-12. 感染性心内膜炎

【疫学・発症機序】

1. 特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 臨床症状を説明できる。

【治療】

1. 予防と治療に関するガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 血中濃度モニタリング（TDM）の必要な薬剤の至適血中濃度を説明できる。

参考書籍等：

1. 感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン（2017年改訂版）、日本循環器学会 <http://www.j-circ.or.jp/index.htm>

4-1-14-13. 敗血症

【疫学・発症機序】

1. 特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 診断方法を概説できる。
2. 血液培養の必要性を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 日本版敗血症診療ガイドライン 2020、日本集中治療医学会・日本救急医学会、真興交易（株）医書出版部、2020

4-1-14-14. 性感染症

【疫学・発症機序】

1. 性感染症の特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 性感染症の診断方法を概説できる。

【治療】

1. 診断・治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。
4. 発症の予防及とまん延防止策を説明できる。

参考書籍等：

1. 性感染症診断・治療ガイドライン 2020、編集：日本性感染症学会、2020

4-1-14-15. 皮膚／軟部組織感染症

【疫学・発症機序】

1. 皮膚／軟部組織感染症の特徴を説明できる。
2. 主な原因微生物を説明できる。

【診断】

1. 診断方法を概説できる。

【治療】

1. 米国疾病予防管理センター（CDC）手術部位感染ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 抗菌薬使用のガイドライン、編集：日本感染症学会・日本化学療法学会、協和企画、2005
2. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2019、日本感染症学会・日本化学療法学会、ライフサイエンス出版、2019

4-1-14-16. 結核

【疫学・発症機序】

1. 特徴を説明できる。
2. 結核菌の特徴を説明できる。

【診断】

1. 診断方法を概説できる。

【治療】

1. 各種結核ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬の特徴と正しい使い方を説明できる。
3. 治療薬の警告、禁忌および相互作用を説明できる。

参考書籍等：

1. 結核診療ガイドライン 改訂第3版、編集：日本結核病学会、南江堂、2015

4-1-15. 悪性腫瘍：食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、膵がん、肺がん、乳がん、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫（MM）、子宮がん、卵巣がん、腎がん、膀胱がん、皮膚がん、頭頸部がん、前立腺がん、脳腫瘍、がんの支持療法、緩和ケア、造血幹細胞移植

4-1-15-1. 食道がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 放射線療法および化学放射線療法の適応、方法、期間を説明できる。
3. 化学療法および化学放射線療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 化学療法および化学放射線療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 食道癌診療ガイドライン 2017年版（第4版）、編集：日本食道学会、金原出版、2017

4-1-15-2. 胃がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
3. 治療レジメン選択に影響を与える因子（遺伝子等）を説明できる。
4. 分子標的治療薬の適応、使用する薬剤について説明できる。
5. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
6. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 胃癌治療ガイドライン医師用 2021年7月改訂（第6版）、編集：日本胃癌学会、金原出版、2021

4-1-15-3. 大腸がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
3. 治療レジメン選択に影響を与える因子（遺伝子等）を説明できる。
4. 分子標的治療薬の適応、使用する薬剤について説明できる。
5. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
6. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 大腸癌治療ガイドライン 医師用 2019年版、編集：大腸癌研究会、金原出版、2019

2. 遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2020 年版、編集：大腸癌研究会、金原出版、2020

4-1-15-4. 肝がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM 分類、肝障害度、Child-Pugh 分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 肝動脈塞栓療法、肝動注化学療法の適応、使用する薬剤の種類を説明できる。
3. 分子標的治療薬の適応、使用する薬剤について説明できる。
4. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
5. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 肝癌診療ガイドライン 2017 年版補訂版（第 4 版補訂版）、編集：日本肝臓学会、金原出版、2020

4-1-15-5. 膵がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM 分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
3. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 膵癌診療ガイドライン 2019 年版（第 5 版）、編集：日本膵臓学会、金原出版、2019

4-1-15-6. 肺がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. 小細胞肺がんのLD-ED分類と病期の関連性を概説できる。
4. 非小細胞肺がんのTNM分類と病期の関連性を概説できる。
5. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 放射線療法および化学放射線療法の適応、方法、期間を説明できる。
3. 化学療法および化学放射線療法に用いる薬剤のレジメンを説明できる。
4. 治療レジメン選択に影響を与える因子（遺伝子等）を説明できる。
5. 分子標的治療薬の適応、使用する薬剤について説明できる。
6. 治療薬の副作用と初期症状、対応を提案できる。
7. 化学療法および化学放射線療法に対する支持療法を説明できる。

参考書籍等：

1. 肺癌診療ガイドライン-悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む- 2020年版、(第6版) 編集：日本肺癌学会、金原出版、2021

4-1-15-7. 乳がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM分類、St. Gallenのリスク分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 内分泌療法の種類と副作用を説明できる。
3. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
4. 治療レジメン選択に影響を与える因子（遺伝子等）を説明できる。
5. 分子標的治療薬の適応、使用する薬剤について説明できる。
6. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。

7. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 乳癌診療ガイドライン①治療編 2018 年版 ②疫学・診断編 2018 年版、編集：日本乳癌学会、金原出版、2018
2. 乳癌診療ガイドライン 2018 年版〔追補 2019〕、編集：日本乳癌学会、金原出版、2019
3. 遺伝性乳癌卵巣癌 (HBOC) 診療ガイドライン 2021 年版 (第 2 版)、編集：日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構、金原出版、2021

4-1-15-8. 白血病

急性骨髄性白血病 (AML)

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. AML に特異的な検査項目と判定基準を概説できる。
3. FAB 分類、WHO 分類を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. AML の治療薬(寛解導入療法、地固め療法)とレジメンを説明できる。
3. 急性前骨髄球性白血病 (APL) の治療薬(寛解導入療法、地固め療法)とレジメンを説明できる。
4. 治療薬の一般のおよび特有の副作用と初期症状、対応を説明できる。
5. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版補訂版 (第 2 版補訂版)、編集：日本血液学会、金原出版、2020
2. 日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン 第 1-4 巻、編集：日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会
https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1

急性リンパ性白血病 (ALL)

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. ALL に特異的な検査項目と判定基準を概説できる。

3. FAB 分類、WHO 分類を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。
5. フィラデルフィア染色体陽性 ALL の特徴を概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. ALL 治療薬（寛解導入療法、地固め療法、維持療法）とレジメンを説明できる。
3. フィラデルフィア染色体陽性 ALL の治療薬（寛解導入療法、地固め療法、維持療法）とレジメンを説明できる。
4. 髄注（髄腔内投与）の意義と薬剤、レジメンを説明できる。
5. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
6. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版補訂版（第 2 版補訂版）、編集：日本血液学会、金原出版、2020
2. 日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン 第 1-4 巻、編集：日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会
https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1

慢性骨髄性白血病（CML）

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. CML に特異的な検査項目と判定基準を概説できる。
3. FAB 分類、WHO 分類を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。
5. フィラデルフィア染色体について概説できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 治療薬とレジメンを説明できる。
3. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版補訂版（第 2 版補訂版）、編集：日本血液学会、金原出版、2020
2. 日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン 第 1-4 巻、編集：日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会

4-1-15-9. 悪性リンパ腫

ホジキンリンパ腫

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. ホジキンリンパ腫に特徴的な検査項目と判定基準を概説できる。
3. Ann Arbor分類・Cotswold改訂分類を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
3. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年版補訂版（第2版補訂版）、編集：日本血液学会、金原出版、2020
2. 日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン 第1-4巻、編集：日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会

https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1

非ホジキンリンパ腫

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 非ホジキンリンパ腫に特徴的な検査項目と判定基準を概説できる。
3. WHO分類に従って、主な病型を説明できる。
4. Ann Arbor分類を概説できる。
5. 予後因子（IPI）を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法薬に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
3. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。

4. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版補訂版（第 2 版補訂版）、編集：日本血液学会、金原出版、2020
2. 日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン 第 1-4 巻、編集：日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会
https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1

4-1-15-10. 多発性骨髄腫（MM）

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. MM に特徴的な検査項目と判定基準を概説できる。
3. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
3. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 特別な管理を必要とする薬剤（サリドマイド等）について説明できる。
5. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版補訂版（第 2 版補訂版）、編集：日本血液学会、金原出版、2020
2. 日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン 第 1-4 巻、編集：日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会
https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1

4-1-15-11. 子宮がん

子宮体がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. TNM 分類と FIGO 病期分類を概説できる。
3. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 放射線療法の適応、方法、期間を説明できる。
3. 内分泌療法の種類と副作用を説明できる。
4. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
5. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
6. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 子宮体がん治療ガイドライン 2018 年版（第 4 版）、編集：日本婦人科腫瘍学会、金原出版、2018

子宮頸がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. FIGO 病期分類を概説できる。
3. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 放射線療法および化学放射線療法の適応、方法、期間を説明できる。
3. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
4. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
5. 子宮頸がん予防ワクチンの適用と効果を説明できる。
6. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 子宮頸癌治療ガイドライン 2017 年版（第 3 版）、編集：日本婦人科腫瘍学会、金原出版、2017

4-1-15-12. 卵巣がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM 分類・FIGO 病期分類を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
3. 分子標的治療薬の適応、使用する薬剤について説明できる。
4. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
5. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2020 年版（第 5 版）、編集：日本婦人科腫瘍学会、金原出版、2020
2. 遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)診療ガイドライン 2021 年版（第 2 版）、編集：日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構、金原出版、2021

4-1-15-13. 腎がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM 分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. サイトカイン療法の種類と副作用を説明できる。
3. 分子標的治療薬の適応、使用する薬剤について説明できる。
4. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
5. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 腎癌診療ガイドライン 2017 年版、編集：日本泌尿器科学会、メディカルビュー社、2020

4-1-15-14. 膀胱がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM 分類と病期の関連性を概説できる。

4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 膀胱内注入療法の適応、使用する薬剤の種類と副作用を説明できる。
3. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 膀胱癌診療ガイドライン 2019 年版、編集：日本泌尿器科学会、医学図書出版、2019

4-1-15-15. 皮膚がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5 年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM 分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
3. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン（第 3 版）、編集：日本皮膚科学会/日本皮膚悪性腫瘍学会、メラノーマ診療ガイドライン 2019
https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/melanoma_GLv2.pdf
有棘細胞癌診療ガイドライン 2020
https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/SCC_GL2020.pdf
基底細胞癌診療ガイドライン 2021
https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/basal_cell_carcinoma.pdf
乳房外パジェット病診療ガイドライン 2021
<https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/extramammary%20Paget%20disease2021.pdf>

4-1-15-16. 頭頸部がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM分類と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 放射線療法および化学放射線療法の適応、方法、期間を説明できる。
3. 化学療法および化学放射線療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 化学療法および化学放射線療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 頭頸部癌診療ガイドライン 2018年版（第3版）、編集：日本頭頸部癌学会、金原出版、2017

4-1-15-17. 前立腺がん

【疫学】

1. 好発年齢、罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 腫瘍特異的なマーカーの発現の意義と判定基準を概説できる。
3. TNM分類・グリーソン・スコア（Gleason score）と病期の関連性を概説できる。
4. 予後因子を説明できる。

【治療】

1. 治療ガイドラインを概説できる。
2. 内分泌療法の種類（最大アンドロゲン遮断療法（MAB療法）等）と副作用を説明できる。
3. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
4. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
5. 化学療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 前立腺癌診療ガイドライン 2016年版、編集：日本泌尿器科学会、メディカルビュー社、2016

4-1-15-18. 脳腫瘍

【疫学】

1. 罹患率、死亡率、5年生存率を概説できる。
2. 危険因子を説明できる。

【診断】

1. 疾患の定義、臨床症状を説明できる。
2. 診断基準、画像検査所見を概説できる。
3. WHOの悪性度分類と病期の関連性を概説できる。

【治療】

1. 抗浮腫療法について説明できる。
2. 放射線療法の適応、方法、期間を説明できる。
3. 化学療法に用いる薬剤とレジメンを説明できる。
4. 治療薬の副作用と初期症状、対応を説明できる。
5. 化学療法および放射線療法に対する支持療法を提案できる。

参考書籍等：

1. 脳腫瘍診療ガイドライン 2019年版（第2版）、編集：日本脳腫瘍学会、金原出版、2019

4-1-15-19. がんの支持療法

1. 支持療法の目的と意義、症状マネジメントの重要性を説明できる。
2. 悪心嘔吐の発現機序を理解し、発現時期（急性・遅発性・予測性）や制吐剤の適正使用について説明できる。
3. 好中球減少時における顆粒球コロニー刺激因子（G-CSF）使用基準と、リスク分類による予防投与と治療的投与について説明できる。
4. 発熱性好中球減少症時における適切なリスクアセスメントと、初期管理および抗菌薬の適正使用について説明できる。
5. 抗がん剤による腎障害、出血性膀胱炎を予防するための輸液負荷、利尿薬の使用、尿のアルカリ化、予防薬剤の使用について説明できる。
6. メトトレキサート大量療法における血中濃度管理と支持療法を説明できる。
7. 下痢の発現機構（早発性：コリン作動性、遅発性：腸管粘膜障害）と好発薬剤について理解し、予防的措置および治療方法について説明できる。
8. 便秘に対する支持療法を説明できる。
9. 神経毒性に対する支持療法を説明できる。
10. 口内炎に対する支持療法を説明できる。
11. 皮疹に対する支持療法を説明できる。
12. 腫瘍崩壊症候群に対する支持療法を説明できる。
13. 骨転移に対する支持療法を説明できる。

参考書籍等：

1. 新臨床腫瘍学（改訂第6版）、編集：日本臨床腫瘍学会、南江堂、2021
2. 臨床腫瘍薬学、編集：日本臨床腫瘍薬学会、じほう、2019

4-1-15-20. 緩和ケア

1. がん患者が有する全人的苦痛 (total pain) を説明できる。
2. がん性疼痛の症状マネジメントと治療目標について説明できる。
3. がん性疼痛の薬物療法における4つの基本原則 (WHO 方式) を説明できる。
4. WHO の3段階除痛ラダーを説明できる。
5. 疼痛の評価尺度である VAS (Visual Analogue Scale)、VRS (Verbal Rating Scale)、NRS (Numeric Rating Scale)、フェイススケールについて説明できる。
6. 疼痛の種類、患者の状態により、適切な鎮痛薬を説明できる。
7. オピオイド製剤の種類、剤形、作用機序、薬物動態、特徴について説明できる。
8. オピオイド製剤の腎機能低下患者における薬物動態、薬物感受性の変化と用量調節が必要となる薬剤について説明できる。
9. オピオイド製剤の肝機能低下患者における薬物動態、薬物感受性の変化と用量調節が必要となる薬剤について説明できる。
10. オピオイドの副作用とその対処法について説明できる。
11. オピオイド使用時の注意すべき相互作用について説明できる。
12. オピオイド過量投与時の徴候と対処法を説明できる。
13. オピオイドの定時使用とレスキュードーズについて説明できる。
14. オピオイド・スイッチングと鎮痛力価換算について説明できる。
15. 非麻薬性鎮痛薬の種類、剤形、作用機序、特徴について説明できる。
16. 鎮痛補助薬の種類、作用機序、保険適応、特徴について説明できる。

参考書籍等：

1. がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020年版 (第3版)、編集：日本緩和医療学会、金原出版、2020
2. 緩和医療薬学 第1版、編集：日本緩和医療薬学会、南江堂、2013

4-1-15-21. 造血幹細胞移植

1. 末梢血幹細胞移植について概説できる。
2. 骨髄移植について概説できる。
3. 臍帯血移植について概説できる。
4. 移植片対宿主病 (GVHD) について概説できる。
5. 移植片対白血病効果 (GVL) について概説できる。
6. 移植後に起こりやすい合併症を概説できる。
7. 輸血の適応を概説できる。
8. 前処置に用いられる薬剤とレジメンを説明できる。
9. 前処置に用いられる薬剤の一般のおよび特有の副作用と初期症状、対応を説明できる。
10. 前処置の支持療法を提案できる。
11. 免疫抑制薬の血中濃度モニタリングについて説明できる。

参考書籍等：

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版補訂版（第 2 版補訂版）、編集：日本血液学会、金原出版、2020
2. 日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン 第 1-4 巻、編集：日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会
https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1

4-1-16. その他の疾患：酸・塩基平衡異常、電解質異常、栄養欠乏症

4-1-16-1. 酸・塩基平衡異常

【疫学・発症機序】

1. 酸・塩基平衡異常の発症機序と関連する基礎疾患を概説できる。
2. 酸・塩基平衡の維持（Henderson-Hasselbalch の式）を概説できる。
3. 肺と腎が酸・塩基平衡に果たす役割を概説できる。

【診断】

1. 酸・塩基平衡異常の診断に用いる検査値を概説できる。
2. 酸・塩基平衡における単純性変化と代償性変化（アシドーシス、アルカローシス）について概説できる。
3. アニオンギャップの原因を概説できる。
4. 酸・塩基平衡異常の変動に影響する生体の緩衝系を概説できる。
5. アシデミアとアルケミアを概説できる。

【治療】

1. 代謝性アシドーシス時の原因別治療法を概説できる。
2. 代謝性アルカローシス時のクロライド抵抗性有無による治療法の違いを説明できる。
3. 呼吸性アシドーシスと呼吸性アルカローシスの治療法を説明できる。
4. 輸液療法について説明できる。

参考書籍等：

1. 静脈経腸栄養ガイドライン（第 3 版）、編集：日本静脈経腸栄養学会、照林社、2013
2. 日本臨床栄養代謝学会 JSPEN テキストブック、南山堂、2021

4-1-16-2. 電解質異常

【疫学・発症機序】

1. 体液中の電解質と血漿、細胞間液、細胞内における組成の違いを概説できる。
2. 電解質異常の発症機序について説明できる。

【診断】

1. 体液中の電解質の正常値を説明できる。
2. 電解質異常と関連する臓器の関係を概説できる。
3. 電解質異常を引き起こす内分泌系異常の関係を概説できる。

【治療】

1. 水分異常に対する治療法を説明できる。
2. 輸液療法の基本（浸透圧、電解質）を説明できる。
3. ナトリウムの異常に対する治療法を説明できる。
4. カリウムの異常に対する治療法を説明できる。
5. カルシウムの異常に対する治療法を説明できる。

参考書籍等：

1. 静脈経腸栄養ガイドライン（第3版）、編集：日本静脈経腸栄養学会、照林社、2013
2. 日本臨床栄養代謝学会 JSPEN テキストブック、南山堂、2021

4-1-16-3. 栄養欠乏症

【疫学・発症機序】

1. 栄養欠乏症の発症機序について説明できる。
2. 栄養欠乏症の臨床症状ならびに起因する疾患を列挙できる。

【診断】

1. 栄養スクリーニングと栄養アセスメントができる。
2. 栄養欠乏症を診断するための検査値と正常値を説明できる。
3. 栄養欠乏症と他疾患を区別するための検査値を説明できる。
4. ビタミン、微量元素の生理作用ならびに欠乏症について説明できる。
5. 免疫能評価ができる。

【治療】

1. 栄養欠乏症の原因について概説できる。
2. 栄養欠乏症に対する栄養設計や補充療法を提案できる。
3. 薬物療法以外の治療法（食事療法など）について説明できる。

参考書籍等：

1. 静脈経腸栄養ガイドライン（第3版）、編集：日本静脈経腸栄養学会、照林社、2013
2. 日本臨床栄養代謝学会 JSPEN テキストブック、南山堂、2021

4-2. 薬物療法に関する知識

4-2-1. 医薬品の分類・薬理作用・副作用・薬物体内動態・薬物相互作用・特殊集団への投与・剤形の特徴・添加物・含量規格・使用上の留意点などの薬学的知識

1. 薬効による医薬品の分類方法・コードについて説明できる。
2. 規制区分による医薬品の分類について説明できる。
3. 医薬品の副作用情報を収集し、内容について説明できる。
4. 添付文書に記載されている薬物体内動態の記述について説明できる。
5. 薬物相互作用と機序について説明できる。
6. 特殊集団への投与時に注意すべき点を説明できる。
7. 剤形の特徴について説明できる。

8. 医薬品の添加物について説明できる。
9. 医薬品の含量規格について説明できる。
10. 添付文書に記載された使用上の留意点について説明できる。

4-2-2. 医薬品について承認された効能効果・用法用量（保険適用の範囲）

1. 承認された適応症と保険適用の範囲を説明できる。
2. 公知申請制度について説明できる。
3. 後発医薬品と先発医薬品によって適応症が異なることを説明できる。
4. バイオ後続品とバイオ先発品によって適応症が異なることを説明できる。
5. 適応症によって用法用量が異なることを説明できる。

4-2-3. 医薬品の副作用の症状、好発時期、初期症状、対処法

1. 発現しやすい副作用の症状を説明できる。
2. それぞれの副作用の好発時期を説明できる。
3. 副作用の初期症状と注意する検査値について説明できる。
4. 基本的な副作用対策を提案できる。

4-2-4. 各種疾患に関する薬物療法ガイドライン

1. ガイドラインの位置づけを概説できる。
2. ガイドラインの作成目的を概説できる。
3. ガイドラインを適切に利用できる。

参考書籍等：

1. Minds(マインズ)ガイドラインライブラリーセンター
<https://minds.jcqh.or.jp/>

4-2-5. 医薬品管理に関する各種規制（RMP、管理薬など）

1. リスク管理計画（RMP）を説明できる。
2. 医薬品の市販後調査について説明できる。
3. 処方医が限定される医薬品について説明できる。
4. 麻薬、向精神薬、覚せい剤原料、規制医薬品について、管理方法を説明できる。

4-2-6. 医薬品の反応性に関連する薬理遺伝学

1. 医薬品の反応性に影響を与える要因を概説できる。
2. 遺伝子変異によって投与量を調節する医薬品を説明できる。
3. 医薬品の使用前に確認すべき遺伝子検査を説明できる。

4-2-7. 医薬品のベネフィット／リスクの評価に必要な薬剤経済学

1. 費用対効果を検証する手法を概説できる。

2. 医薬品のリスクを防止ないし最小化し最大の治療ベネフィットが得られるように安全対策を提案できる。

参考書籍等：

1. スタンダード薬学シリーズⅡ 第6巻、医療薬学 V. 薬物治療に役立つ情報（補訂版）、編集：日本薬学会、東京化学同人、2021
2. スタンダード薬学シリーズⅡ 第1巻、薬学総論 II. 薬学と社会、編集：日本薬学会、東京化学同人、2016

4-3. 倫理・ヒューマニズムに関する知識

1. 患者の権利宣言（リスボン宣言）を説明できる。
2. 薬剤師倫理規定を説明できる。
3. 生命倫理の4原則を説明できる。

参考書籍等：

1. スタンダード薬学シリーズⅡ 第1巻、薬学総論 I. 薬剤師としての基本事項、編集：日本薬学会、東京化学同人、2015

4-4. 健康増進の知識：健康助言／教育／指導、ワクチン接種、生活指導（疾病予防とヘルスプロモーション）、代替医療

4-4-1. 健康助言／教育／指導

1. 健康維持に必要な食事と運動について説明できる。
2. 健康診断の必要性和意義を教育できる。
3. がん検診の必要性和意義を教育できる。

4-4-2. ワクチン接種

1. ワクチンの種類と投与法を説明できる。
2. 接種対象と接種時期を説明できる。
3. ワクチン接種による副反応を説明できる。
4. ワクチン接種の意義を説明できる。
5. 海外渡航時に接種が必要なワクチンと接種方法を説明できる。

4-4-3. 生活指導（疾病予防とヘルスプロモーション）

1. 喫煙が健康におよぼす影響について説明し、禁煙指導ができる。
2. 過度の飲酒が健康におよぼす影響について説明し、生活指導ができる。
3. 口腔衛生の必要性を教育し、正しい実施の指導ができる。
4. 生活習慣病を予防するために生活指導ができる。

4-4-4. 代替医療

1. 健康食品やサプリメントの種類と効果について説明できる。
2. 代替医療の種類と方法を概説できる。